

ゆっくり、ゆったりが子どもの時間

JT 生命誌研究館 館長 中 村 桂 子



“お願い。早くしてちょうだい。” 遠い昔のことですが、子どもたちが小さかった頃、この言葉をどれだけくり返したことでしょう。子育て中の母親が一番多く口にする言葉が「早くして」だという調査結果を目にしたこともあります。

最近仕事をもつ母親がふえており、限られた時間で家事をしなければなりません。今日は帰りが少し遅くなってしまった、一刻も早く帰って夕食の仕度をしなければと気が急いでいる時に限って、一緒に歩いている子どもが道端にしゃがみこむのです。手にしているのは小さな石ころ。「何それ。急いでいるのよ。捨てなさい。」こんな体験をお持ちの方は多いのではないのでしょうか。私にもそんなことがありました。でも、こう言いながら私は心の中で“ゴメンネ。本当はゆっくり歩いて道端に咲いているカタバミやアリヤ石ころなど、あなたと一緒に眺めたいのだけれどお夕飯作らなければみんなが困るでしょ。”と謝っていました。子どもたちにとってそういう時間が大切なのだということを思いながら。

先日、幼稚園や保育園の先生方にお話をする機会があり、この話をしました。すると若い男性の保育士さんが「ばくも毎日、『早く、早く』をくり返しています。それを言わなかったらこれから学校へ行き、社会へ出て行くこの子たちがうまく生きていけないだろうと思うからです。」と言うのです。「えっ？」一瞬頭の中が白くなりました。そして、急かしてゴメンネは時代遅れということかしらと考え始めました。

今や私たちの生活は機械に支えられています。炊飯器、電子レンジ、冷蔵庫・・・皆便利です。これらがない生活など考えられません。手を抜けて、早く、思い通りに動いてくれるので機械はとて

がたい。竈で御飯を炊き、^{たらい}盥でお洗濯する日々を考えたら、悲鳴をあげたくなります（暫く前まではそうだったのです）。機械を悪者にするつもりはありません。でも、機械の便利さに慣れて、なんでも早くできて、手をかけないで、思い通りにできるものと思い、それをよいことと決めてしまうのはどうでしょう。

生きものは、時間をかけて育っていくものです。子どもは手がかかりますが、手をかけることに喜びがあります。もし子どもたちが、お父さんもお母さんもうまくいいよ。自分でちゃんとできるからと言い始めたら寂しいでしょう。しかも機械と違って子どもたちはなかなか思い通りになりません。でもそこが面白い。時々思いがけないことをやってこの子天才かなと思わせてくれたりします。それなのに、早く、早くと言わなければ社会に合わなくなってしまうと心配するのは、子どもを生きものでなく機械のように見ているのではないかととても気になります。

電車の中で皆がスマホを見ている社会です。これからこの傾向は更に強くなるでしょう。人工知能の開発も盛んですし、自分で判断して動く家電がふえてくるに違いありません。機械は本来人間とはまったく違うものです。人間は生きものなんだということを忘れずに、ゆっくりと道端の草や虫とつき合う時間を大切にしないと、人間まで機械のようになりかねません。子どもの時が大切です。一見ムダに見える時間を大切に、ゆっくり、ゆったりでいいんだよという気持ちを失うことのないように、大人が気をつけなければならないのです。生きものとして続くか。機械のようになるか。別れ道にいるように思います。

事業報告・事業計画案などを議決

令和元年度 定時総会 5月22日 東京・私学会館

令和元年度の定時総会は5月22日（水）、東京・私学会館において全国から136人（委任状19人含む）が出席して開催されました。

田中雅道副会長の開会の言葉に続き、来賓の文部科学大臣・柴山昌彦衆議院議員、全日本私立幼稚園PTA連合会会長・河村建夫衆議院議員、自由民主党幼児教育議員連盟会長・中曽根弘文参議院議員、自由民主党幼児教育議員連盟事務局長・馳浩衆議院議員、全日本私立幼稚園PTA連合会副会長・山本順三参議院議員、自由民主党幼児教育議員連盟副会長・橋本聖子参議院議員、自由民主党幼児教育議員連盟事務局長次長・山谷えり子参議院議員に挨拶をいただきました。そのほか、来賓として文部科学省より芦立訓文部科学審議官、先崎卓歩初等中等教育局幼児教育課長、井上睦子高等教育局私学部私学助成課長にご出席いただきました。続いて、香川敬会長から「令和という新しい年を迎え、今一番大きな岐路に立っている。幼児教育無償化を前に全国8000の幼稚園がより一層地域に愛され、それぞれ独自性をもって輝いていくことができるよう、市町村としっかりとした連携が重要である。幼児教育振興法の日も早い成立が望まれる中で、全日としてさらなる研修・免許状の上進等質の向上に取り組んでいきたい。」旨、挨拶がありました。その後議長を選出に移り、二井睦（三重・和順）、渡辺力（長崎・中央）両氏を選出し、続いて12名の議員運営委員が紹介され、坂本洋議事運営委員長から総会成立の確認、議案と議事進行について説明がありました。議事録署名人には、小林直樹氏（静岡・富士中央）佐藤康広氏（鳥取・米子みどり）を選出し、議事に入りました。



文部科学大臣
柴山昌彦・衆議院議員



全日本私立幼稚園
PTA 連合会会長
河村建夫・衆議院議員



自由民主党
幼児教育議員連盟会長
中曽根弘文・参議院議員



自由民主党幼児教育
議員連盟事務局長
馳浩・衆議院議員



全日本私立幼稚園
PTA 連合会副会長
山本順三・参議院議員



自由民主党幼児教育
議員連盟副会長
橋本聖子・参議院議員



自由民主党幼児教育
議員連盟事務局長次長
山谷えり子・参議院議員

■審議事項（1）平成30年度事業報告・収支決算承認の件については、各委員会委員長、プロジェクト座長より報告がありました。続いて、坪井久也総務委員長から収支決算について説明が行われ、石川雄巨監事から厳正かつ適正に処理されている旨の監査報告があり、挙手多数にて承認されました。

■審議事項（２）令和元年度事業計画案・収支予算案承認の件については坪井総務委員長、プロジェクト座長が事業計画案の説明を行いました。次に坪井総務委員長より収支予算案の説明があり、原案は挙手多数にて承認されました。

■報告事項（１）全日本私立幼稚園連合会岩田専務理事から幼児教育の無償化について詳しい説明がありました。特に、無償化実施後の課題と市町村との対応について、具体的に丁寧な説明がありました。全日としては今後も無償化への対応に関しては説明会を開催する予定である旨お知らせがありました。

■報告事項（２）（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構からの報告については、特に幼児教育の無償化に際し、公教育として位置付く私立幼稚園並びに認定こども園の教育・保育の質の維持向上を目的とした幼児教育実践のさらなる質の向上を図るた



めのチャレンジ・ビジョンについて詳しい説明がなされました。最後に尾上正史副会長から「みんなで心一つにしてこの難関を乗り越えよう。」との言葉で閉会しました。

（調査広報副委員長 光岡美恵子）

●5.14 理事会

平成30年度事業報告・収支決算を議決

5月14日（火）東京・私学会館にて全日私幼連理事会が開催され、理事49名が出席しました。安達譲副会長の開会の言葉の後、香川敬会長のあいさつが述べられました。その後、議長に武田正廣氏（秋田）と大矢野隆嗣氏（熊本）、議事録署名人に角谷正雄氏（新潟）と岡本和貴氏（徳島）を選出しました。

行政報告として文部科学省初等中等教育局幼児教育課長の先崎卓歩氏より幼児教育の無償化について報告がありました。

審議案件（１）各委員会委員長等より平成30年度事業報告の説明があり、全会一致で定時総会へ上程されました。（２）平成30年度収支決算を坪井久也総務委員長、会務監査報告を田中圭子監事から報告があり全会一致で定時総会へ上程されました。（３）尾上正史副会長より国政対応について説明がありました。

続く協議案件では、坪井久也総務委員長より幼児教育無償化後の対応について、岩田知也専務理事より資料に基づいて説明があり次に報告案件では、各委員会委員長等より会務運営報告がありました。

また、（公財）全日私幼研究機構東重満理事長より財団の会務執行状況や今後の財政運営について報告がありました。

その他坪井総務委員長より定時総会（5/22）の報告がありました。最後に田中辰実副会長より閉会の言葉が述べられ、終了しました。

（総務委員長・坪井久也）

☆新しい団体長（令和元年5月22日現在）

奈良県＝宮本忠史・畿央大学付属

*氏名・園名／敬称略

= 総務委員会 =

委員長＝坪井久也、副委員長＝宮崎史郷、近藤 宏、委員＝岸 豊、知久賢治、福井徹人、篠田佳幸、小林直樹、佐藤康広、渡辺 力、委員会＝4回開催

平成 30 年度は、①各種会議の運営を図り、会務運営の協議を行なった。また正副会長・委員長会を開催し、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構および各委員会の活動状況報告ならびに情報交換を行なった。②予算・決算および会計その他財務全般に関する会務執行状況の確認を行なった。また、本連合会の今後の財源不足への対応について協議を行なった。③会務執行上、一般会計予算・特別会計予算の補正を行なった。④本連合会の諸活動の財源である一般会費は年度内に完納いただきました。⑤全日本私立幼稚園 P T A 連合会の所管委員会の変更のため、会則施行細則の改正を行なった。⑥ 12 月 10 日(月)東京・ホテルニューオータニにて、第 33 回 P T A 全国大会を全日本私立幼稚園 P T A 連合会と連携し開催した。⑦ J K 保険について、保障の大型化、小規模保育事業や企業主導型保育事業への対応など保障内容の見直しを行なった。また、今後予想される職場のメンタルヘルスへの対応を盛り込んだ新しい総合的保障制度の提案を行なった。⑧平成 30 年度に起こった台風・豪雨・北海道や大阪の地震等の見舞金を支給した。⑨幼児教育無償化への対応として、政策・経営・認定こども園委員会などとも連携し対応を行ない、臨時理事会の開催・各種文書の発出を行なった。⑩こどもがまんなか P R O J E C T の協力金活動を行なった。⑪永年勤続者表彰事業を行なった。

【具体的活動内容】

1. 会議の開催／(1) 定時総会：平成 30 年 5 月 23 日東京・私学会館(出席者 145 人)(2) 理事会：平成 30 年 5 月 8 日東京・私学会館(出席者 60 人) 10 月 2 日東京・私学会館臨時(出席者 58 人) 12 月 14 日東京・私学会館合同(出席者 56 人) 平成 31 年 2 月 22 日東京・ホテルグランドヒル市ヶ谷臨時(出席者 59 人) 3 月 5 日東京・私学会館(出席者 56 人)(3) 常任理事会：平成 30 年 4 月 24

日東京・私学会館(出席者 33 人) 6 月 11 日東京・私学会館(出席者 28 人) 10 月 2 日東京・私学会館(出席者 31 人) 12 月 14 日東京・私学会館(出席者 30 人) 平成 31 年 2 月 22 日東京・ホテルグランドヒル市ヶ谷(出席者 26 人)(4) 団体長会：平成 30 年 12 月 14 日東京・私学会館合同(出席者 45 人)(5) 監査会：平成 30 年 4 月 20 日東京・全日私幼連事務局(出席者 8 人) 11 月 12 日東京・全日私幼連事務局(出席者 7 人)

2. 関係団体との連絡／(1) 内閣府：男女共同参画推進連携会議：議員・香川敬、子ども・子育て会議・基準検討部会：委員・水谷豊三(2) 文部科学省：私学共済年金研究会：協力者・小澤俊通中央教育審議会初等中等教育分科会：臨時委員・田中雅道、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会：臨時委員・田中雅道、特別支援教育ネットワーク推進委員会：委員・加藤篤彦、教員資格認定試験：委員・東重満、(3) 厚生労働省：児童虐待防止対策協議会：委員・香川敬、(4) 日本私立学校振興・共済事業団：共済運営委員会：委員・小澤俊通、共済年金制度研究委員会：委員・小澤俊通、(5) 私学研修福祉会：理事・安達譲、評議員・尾上正史(6) 全私学連合代表者会議：委員・香川敬、田中雅道、田中辰実、安達譲、(7) 全国私立学校審議会連合会：副会長・友松浩志、(8) 日本ユニセフ協会：顧問・香川敬、(9) O M E P 日本委員会：理事・香川敬、(10) 日本防火・防災協会：評議員・尾上正史、(11) 日本スポーツ振興センター学校安全推進会議：委員・小澤俊通、(12) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会：顧問・香川敬

3. 役職員出張／各地区の研修会や地区会・都道府県団体に役職員が出張した。

4. 表彰事業／永年勤続表彰：50 年以上 26 人、40 年以上 72 人、30 年以上 183 人、20 年以上 474 人、合計 755 人。

5. 保険・福利厚生に関する事項／全日私幼連保険制度の理解を深め、その充実と加入促進を図り実績をあげた。

6. 推薦、協力、後援／推薦：①平成 31 年度版・たのしいなつ(チャイルド本社) ②平成 30 年度版・

なつのおともだち(フレーベル館)③映画「それいけ!アンパンマン きらめけ!アイスの国のバニラ姫」(フレーベル館)／協力:平成31年度第73回児童福祉週間(厚生労働省)／後援:①平成30年度こども環境管理士資格試験(日本生態系協会)②第13回子ども身体運動発達指導士養成講習会(日本スポーツクラブ協会)③第39回全国歯科保健大会(厚生労働省)④第13回香川県私学振興大会(香川県私立中学高等学校保護者会)⑤平成30年度高知県私立幼稚園PTA大会(高知県私立幼稚園PTA連合会)⑥子どもの虐待防止推進全国フォーラム(厚生労働省)⑦ユネスコスクール全国活動(文部科学省)⑧第68回全国幼児教育研究大会(全国幼児教育研究協会)⑨世界自閉症啓発デー・シンポジウム(日本自閉症協会)⑩第16回おやじ日本全国大会(認定特定非営利活動法人おやじ日本)⑪第12回ビルメンこども絵画コンクール(全国ビルメンテナンス協会)⑫第50回全国情緒障害教育研究協議会(全国情緒障害教育研究会)⑬平成31年度の活動について(ダンス教育振興連盟JDAC)⑭第14回長崎県私学振興大会(長崎県私立中学高等学校協会)⑮フードシステムソリューション2018(フードシステムソリューション実行委員会)⑯全国学校・園庭ビオトープコンクール2019(日本生態系協会)⑰第51回手紙作文コンクール、全日本年賀状コンクール(日本郵便株式会社)⑱日本乳幼児教育学会大会(日本乳幼児教育学会)⑲子育てフォーラムinとくしま(徳島県私立幼稚園協会)⑳第24日本保育保健学会(日本保育保健学会)㉑日本子ども虐待防止学会第25回学術集会(日本子ども虐待防止学会学術集会)㉒映画「あの日のオルガン」(協同組合ジャパン・スローシネマ・ネットワーク)／協賛:①平成31年春・秋の全国交通安全運動(内閣府)②平成31年度「道路ふれあい月間」(国土交通省)

＝ 政策委員会 ＝

委員長＝水谷豊三、副委員長＝森島弘道、前田元照、委員＝佐々木栄光、滝田昌孝、堀江眞嗣、藤田 聡、富樫克哉、吉田宏道、奥野 宏、樫村文夫、境 信

博、委員会＝3回開催

【具体的活動内容】

平成31年度政府予算については、正副会長、政策委員会が一丸となって取り組んだ結果、私立高等学校等経常費助成費補助(幼稚園分)が1人当たり単価187,449円(1.4%増)となった。子ども・子育て支援新制度は平成27年4月よりスタートし、私立幼稚園からの移行が徐々に進み、平成30年度の移行状況は、41.9%となっている。本連合会としては、国の子ども・子育て会議等において、新制度の公定価格の加算の見直しや、人員配置などの問題点を指摘しつつ、市区町村における運用面の不適切な事例の改善を求めてきた。当委員会は私学助成園と新制度園との間の税制上の不公平の是正策の検討、すべての私立幼稚園等の教職員の処遇改善策等について検討を行ない、国に対して改善を求めた。研修については、都道府県政策担当者会議(9月)設置者・園長全国研修大会(10月)の研究講座担当の他、を開催し、私立幼稚園等の現在、将来の課題について検討を行なった。また、2019年10月1日より始まる幼児教育の無償化について、加盟園に対して情報の周知・共有を行なった。今後も引き続き、加盟園に対して有益な情報を適宜、ホームページ等を通じて周知していく事とする。

＝ 教育研究委員会 ＝

委員長＝加藤篤彦、副委員長＝川原恒太郎、岡本和貴、委員＝青木賢亮、千葉亮子、杉森信幸、佐藤緑郎、杉本育美、青木洋子、村手 敦、熊谷知子、水原紫乃、淵 和子、吉井 健、専門委員＝岡本潤子、亀ヶ谷忠宏、協力委員＝平林 祥、秦 賢志、委員会＝9回開催

【具体的活動内容】

教育研究委員会の事業は、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・研究研修委員会において実施しているため、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の平成30年度事業報告書に記載。

= 経営研究委員会 =

委員長＝内野光裕、副委員長＝飯塚拓也、池田 清、委員＝末屋保広、増田義則、藤森 至、上内智裕、友國富夫、森本嘉一、波多江教雄、佐々木慈舟、委員会＝4 回開催

【具体的活動内容】

1. 第 34 回設置者・園長全国研修大会の企画および実施／平成 30 年 10 月 22 日（月）・23 日（火）の 2 日間、一般社団法人栃木県幼稚園連合会の協力のもと、宇都宮市・ホテル東日本宇都宮を会場にて開催。全国各地から 564 人の設置者・園長が参加。大会初日は開会式に引き続き、平野早矢香氏（ロンドン五輪卓球女子団体銀メダリスト）の記念講演『昨日の自分より一歩前へ～卓球から学んだ挑戦することの大切さ～』、先崎卓歩氏（文部科学省初等中等教育局幼児教育課長）の行政報告『私立幼稚園を取り巻く現状と課題』、岩崎正明氏（株式会社ブラテック代表取締役）より幼稚園ナビ（アプリ）報告。翌日 23 日は、「研究講座 1（教育）」演題：『幼児教育の質向上をめざして～園内研修をてがかりにして～』『研究講座 2（振興）」演題：『無償化にかかる私学助成園の諸課題と対策／私学助成園の処遇改善と私学助成金の増額を目指して』『研究講座 3（経営）」演題：『人材確保～幼稚園ナビならびに各地域での教員採用事例を踏まえて』『研究講座 4（認定こども園）」演題：『認定こども園として無償化にどう備えるか？』以上、4 講座を実施した。

2. 平成 30 年度（第 30 回）私立幼稚園経営実態調査の実施と報告／全日私幼連加盟の 7,577 園に実施調査票を配布し、3,672 園（回収率 48.5％）から回答を得た。調査結果をもとに、保育料等の分析を行ない、報告を全日私幼連ホームページならびに全日私幼連要覧 2019 にて行なった。なお本年度は、子ども・子育て支援新制度等に関する調査も実施し結果を掲載した。

3. 子ども・子育て支援新制度への対応／第 34 回設置者・園長全国研修大会（栃木県・宇都宮市）において、新制度の課題や各地の現状を踏まえて認定こども園の今後について研究講座を実施した。

4. 幼児教育振興法の早期制定に向けた活動に関する事項／幼児教育振興法の根幹である質の高い幼児教育を実施できるよう、設置者・園長全国研修大会の研究講座を行なった。

5. 幼稚園教育を中心とする幼児教育の無償化に関する事項／他委員会と連携して対応を行なった。

6. 後継者育成研修会の開催／2 月 18 日（月）東京・アルカディア市ヶ谷にて、若手を育成し次世代の後継者を養成することを目的とした、『後継者育成研修会』を開催し全国から 165 名が参加。開会の後に、行政報告先崎卓歩氏・文部科学省初等中等教育局幼児教育課長より『幼児教育の現状と課題』と題して行われた。続いて、高橋道枝氏・杜の都労働コンサルタンツ 高橋宮地合同事務所 特定社会保険労務士より『環境の変化にあわせた就業規則関連諸規程を考察する』と題して講演を行なった。続いて、各グループに分かれワークショップを行ない、アドバイス等を募りながら活発な意見交換を行なった。

7. 人材確保に関する事項【幼稚園ナビ】／本年度、文部科学省が実施する『幼稚園の人材確保支援事業』の委託を引き続き受け、幼稚園ナビ【ウェブサイト・アプリ】の機能強化を行なった。今年度は、『合同就職説明会』の申込受付から当日受付までの一連の流れを幼稚園ナビ上でできるようにした。これは、説明会を行なう際に事前受付をした学生に対して QR コードを発行し、事前にリマインドメール等を送付し、当日の受付を簡易的なものになるようにした。また幼稚園としても、来訪者の詳細な情報の確認及び効果測定【事前申込者とブース来訪者の確認】ができるようになった。さらに運営する私立幼稚園団体事務局は、事前準備、当日の受付等に必要となる業務の効率化を図った。現在の登録園数は、2,557 園【平成 31 年 3 月 31 日 現在】。今後も継続して機関誌での周知、各種会議・研修会での登録のお願いを行っていくこととする。次年度では、登録率を 50％以上になることを目標とし今後も運営していく。

8. 税制に関する事項／私学助成園及び新制度移行園が、公平な税制となるよう、政策委員会、認定こども園委員会と連携して検討を行なった。

9. 学校法人会計基準に関する事項／学校法人会計基準の変更に伴って、主な改正点のポイントや注意事項ならびに幼稚園における改正の影響について、諸会議等について資料提供を行ない、周知した。

10. 就業規則に関する事項／平成 22 年に改定した就業規則を、社会保険労務士の方にご指導いただきながら、新たに就業規則関連諸規程例を改訂する。本規程例は、私学助成を受ける幼稚園ならびに新制度へ移行した幼稚園等に対応した規程とし、次年度、加盟園へ 1 部冊子を無料配布できるよう今後、準備を進めていく事とする。

= 広 報 委 員 会 =

委員長＝川名マミ、副委員長＝源 恭子、光岡美恵子、委員＝山西幸子、前田浩輔、野上秀子、宮本忠史、高尾恵子、専門委員＝前田 幹、波岡伸郎、奈良誉夫、委員会＝4 回開催（別途小委員会を 4 回開催）

【具体的活動内容】
広報委員会の事業は、（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・調査広報委員会において実施しているため、（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の平成 30 年度事業報告書に記載。

= 1 0 2 条 園 委 員 会 =

委員長＝溝淵真澄、副委員長＝竹内一雄、専門委員＝小山嘉治、福田博多、中尾賢治、永田真理、和田 誠、谷成 悟、委員会＝3 回開催

【具体的活動内容】

1. 平成 30 年度・都道府県 102 条園研究会議の企画・実施／都道府県団体の 102 条園代表者 90 人が集まり、平成 30 年 9 月 19 日（水）東京・私学会館で開催した。「幼児教育の無償化について」と題して、岩岡寛人氏・文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官が講演。次に、参加者より事前に集めた質問等を岩岡寛人氏よりご回答いただき情報交換を行なった。また、各地域からの現状報告を 102 条園委員や参加者から行ない、意見交換をグループディスカッション形式にて行なった。

2. 平成 30 年度・102 条園研修会の企画・実施／私立幼稚園を取り巻く状況の変化に対応するため、平成 31 年 2 月 25 日（月）東京・私学会館で開催し、全国から 81 人の先生方が参加した。「102 条園からみた幼児教育の無償化について」と題して、田中雅道氏・全日私幼連副会長が講演し、その後、幼児教育の無償化ならびに子ども・子育て支援新制度について質疑応答を行なった。

3. 平成 30 年分・青色申告決算の手引書等の作成／平成 30 年分も昨年と同様に、「青色申告の決算の手引き」の紙媒体での配布を止め、全日私幼連のホームページに掲載し、青色申告決算の手引書等をダウンロードして活用してもらうようにした。

= 認 定 こ ど も 園 委 員 会 =

委員長＝濱名 浩、副委員長＝石田明義、濱川喜亘、委員＝平栗光弘、石戸奈緒美、鮎川 剛、直井利充、石井和則、山崎拓史、安本照正、専門委員＝松原直俊、森迫建博、委員会＝5 回開催

【具体的活動内容】

1. 認定こども園に関する情報の収集と発信に関する事項／平成 30 年 12 月 17 日の委員会において全国の認定こども園における公定価格の傾向や収益率をはじめとした経営状況を指吸会計センター株式会社の谷崎清治様からレクチャーを受けたのち、新制度移行園の経営指標の作成を行なうことを検討した。これに対し、経営研究委員会所管の経営実態調査の子ども・子育て支援新制度部分に本委員会が項目の追加等の加筆修正を行ない、次年度の発出に向けて準備を行なっている。また、幼児教育・保育の無償化に伴う重要事項説明書の項目の見直しについて検討を行なった。

2. 子ども・子育て支援新制度に関する事項／平成 30 年 6 月 19 日の委員会において子ども・子育て支援新制度の見直しに対する要望事項について意見集約・議論を行なった。国の子ども・子育て会議へ提出の意見書に反映をさせた。

3. 幼児教育振興法の制定に向けた活動に関する事項／政策委員会、経営委員会と連携して協議を行

なった。

4. 政府の進める「幼児教育・保育の無償化」への対応に関する事項／第 34 回設置者・園長全国研修大会（栃木県・宇都宮市）において、「認定こども園として無償化にどう備えるか？」と題して、2019 年 10 月 1 日よりはじまる幼児教育の無償化にむけて新制度移行園の課題や今後の見通しに関する研究講座を実施し、約 260 名の参加をえた。

5. 教育研究委員会と連携した 3 歳未満児への対応に関する事項／移行園を対象とした認定こども園全国研修会にて、教育研究委員会の提示する課題に対応し、「3 歳未満児保育 未満児の豊かな育ちを保障する保育とは」というテーマで阿部和子・大妻女子大学家政学部教授にご講演いただいた。

6. 認定こども園志向園を対象とした研修会 1 回、認定こども園移行園を対象とした研修会 2 回（地方開催）の企画・実施に関する事項／平成 30 年 5 月 14 日（月）に新制度移行を志向する園の設置者・園長及びそれに準ずる方を対象とした「認定こども園『教育・保育 質の向上』研修会 ～新制度移行 5 年間の計画期間終了にむけて移行の準備を整える～」を開催し、約 130 名の参加をえた。

研修内容は、濱川喜亘・全日私幼連認定こども園委員会副委員長による「都市部における認定こども園移行実例と今後の課題について」、安本照正・全日私幼連認定こども園委員会委員による「新制度について～新制度のメリット・デメリット～」の各講演のあと、「新制度移行にあたり各々の課題解決をめざす」と題したグループワークを行なった。平成 31 年 1 月 28 日（月）に新潟・朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて新制度移行園を対象に「認定こども園『教育・保育 質の向上』全国研修会～これから認定こども園が直面する課題に向き合う～」を開催し約 150 名の参加をえた。

研修会は、先崎卓歩・文部科学省初等中等教育局幼児教育課長による「認定こども園にかかわる現状と課題」、阿部和子・大妻女子大学家政学部教授による「3 歳未満児保育 未満児の豊かな育ちを保障する保育とは」、秦賢志・幼保連携型認定こども園はまようちえん理事長、奥水基・認定こども園阿久

根めぐみこども園園長、安達譲・全日私幼連副会長による「認定こども園の独自性を活かした教育経営 教育・保育の質向上への取組み」、安家周一・あけぼの幼稚園園長、角谷正雄・（一社）新潟県私立幼稚園・認定こども園協会理事長、濱名浩・全日私幼連認定こども園委員会委員長による「職員の働き方の充実と人材確保、組織マネジメントについて」という内容で各講演を行なった。

平成 31 年 2 月 25 日（月）に大阪・大阪ガーデンパレスにて新制度移行園を対象に「認定こども園『教育・保育 質の向上』全国研修会～これから認定こども園が直面する課題に向き合う～」を開催し、約 260 名の参加をえた。研修会は、先崎卓歩・文部科学省初等中等教育局幼児教育課長による「認定こども園にかかわる現状と課題」、阿部和子・大妻女子大学家政学部教授による「3 歳未満児保育 未満児の豊かな育ちを保障する保育とは」、馬場耕一郎・聖和短期大学准教授による「認定こども園の独自性を活かした教育経営 研修から評価まで」、安家周一・あけぼの幼稚園園長、角谷正雄・（一社）新潟県私立幼稚園・認定こども園協会理事長、濱名浩・全日私幼連認定こども園委員会委員長による「職員の働き方の充実と人材確保、組織マネジメントについて」という内容で各講演を行なった。

7. 政策委員会と連携した関係省庁との協議・連絡及び政府予算対策運動に関する事項／政策委員会より意見照会がなされた幼児教育無償化、預かり保育、2 歳児の受け入れについて委員会内で検討、意見を集約し提出した。

＝政令指定都市特別委員会＝

委員長＝前田元照、副委員長＝柿迫重正、金子眞理子、委員＝阿部光浩、松尾 創、鈴木伸司、升光泰雄、木元 茂、斎藤聖治、村上順滋、委員会＝2 回開催

【具体的活動内容】

1. 比較的に大規模園が集中する大都市（各政令指定都市・中核市）特有の子ども・子育て支援新制度移行が余り少ない現状の中、私学助成園・新制度移

行園（認定こども園を含む）共に今後の運営の在り方についての意見交換を行なった。

2. 政令指定都市・中核市に対する、全ての種類の認定こども園・幼稚園に関する都道府県からの権限移譲についての意見交換を行なった。

3. 政令指定都市・中核市における地方版子ども・子育て会議や、利用定員設定や施設整備に関わる審議会への私幼団体の積極的な参画についての意見交換を行なった。

4. 幼稚園・認定こども園が行なう一時預かり事業幼稚園型（2歳児定期利用等）、一時預かり事業一般型、小規模保育所併設等、都市部における待機児童解消の方策に関しての各政令指定都市・中核市担当部局との円滑な連携や協力についての意見交換を行なった。

5. 各政令指定都市・中核市を総括している都道府県私幼団体とのしっかりした協力体制と円滑な連携体制の在り方について意見交換を行なった。

6. 各政令指定都市・中核市に対し、既に都道府県から権限移譲されている制度や補助システム等についての情報交換の場として、平成30年11月19日アルカディア市ヶ谷私学会館にて政令指定都市特別委員会研修会（第3回）を開催した。講座1「幼児教育の無償化と新制度5年後の見直しについて」（水谷豊三全日私幼連政策委員会委員長）、政令指定都市特別委員会委員等による講座2「変化の時代、

わたしの街の幼児教育～カタチにする力を考える～」などの講演・意見交換を行なった。

＝こどもがまんなかPROJECT企画推進会議＝

会議メンバー＝香川敬、田中雅道、四ツ釜雅彦、小澤俊通、田中辰実、安達謙、尾上正史、岩田知也、東 重満、坂本 洋、宮下友美恵、坪井久也、水谷豊三、加藤篤彦、内野光裕、川名マミ、溝渕真澄、濱名 浩、加藤積一、藤本明弘、会議＝10回開催

【具体的活動内容】

1. プロジェクト企画推進事業／（1）冊子「絵本ガイドブック」の発行・配布・普及、及び「22世紀の日本が輝き続けるために」の普及について：都道府県団体事務局宛にこどもがまんなかPROJECT物品ご注文のご案内を発出し、「絵本ガイドブック」、「22世紀の日本が輝き続けるために」を含む制作物の案内と周知を図った。（2）共生・国際的支援活動（「東日本大震災支援活動」、「国内外の災害緊急支援活動」、「みんなのゆめをつなごうーシードペーパー」の普及、国際貢献活動）：都道府県団体事務局宛にこどもがまんなかPROJECT物品ご注文のご案内を発出し、シードペーパーを含む制作物の案内と周知を図った。（3）日本文化、地域文化、各国文化の学び・継承（日本の風土に基づいた催事、食文化の学び、親子のコミュニケーションの



新しいものを見るたび、触れるたび、

目覚ましく成長する子どもたち。

子どもたちにとって、毎日が成長の舞台です。

育む環境で、子どもたちの明日は変わる。

だから、私たちは大切なことを「環境」から考えます。

好奇心や想像力、勇気や感動。

そして、子ども同士の関わり合い。

子どもたちが大切な時期に、確かな一歩を踏み出せるように、

最良な環境の未来をつくりあげていきます。

こども環境の未来をつくる



ジャクエツ

活性化、世界とこどもを結ぶ活動)：PTA しんぶん 12 月号 4 面にて「箸」の歴史や選び方、使い方を掲載し、日本独自の伝統文化について啓発した。(4) こどもが まんなか生活 (都道府県の私立幼稚園団体と連携・協力したイベントを開催)：9 月 8 日東京都立川市にて「第 16 回幼稚園の『子育て教育フェア』」に、ブース出展、後援を行なった。こどもが まんなか PROJECT 活動についてパネル展示を行ない、こどもが まんなか PROJECT オリジナルうちわに親子でお絵描きをしてもらうことで、本プロジェクトの活動の周知を図った。(5) 社会への普及啓発活動 (マスメディアへの広報活動、サポーターシップ活動、個人や企業の募金、各幼稚園等の募金)：平成 30 年 12 月に全日本私立幼稚園 PTA 連合会と (公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構との連名で、冊子『未来を生きる子どもたちのために～幼児教育をもっと豊かに～』を発刊した。幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が昨年改訂されたことや、2019 年 10 月から幼児教育・保育の無償化がはじまる等、幼児教育を取り巻く環境がめまぐるしく変わる現在、改めて幼児教育の重要性を社会へ啓発していくことを目的として発刊し、1 冊 300 円 (税込) で販売している。(6) 連携・共有 (各都道府県の私立幼稚園団体と連携した活動、『私幼時報』『PTA しんぶん』による広報活動)：毎月 PTA しんぶん 4 面にてこどもが まんなか PROJECT の活動内容や刊行物の紹介等をおこない、こどもが まんなか PROJECT の発信拠点となるよう紙面を工夫し広報活動に努めた。また、第 3 回こどもが まんなか PROJECT アワードと冊子『未来を生きる子どもたちのために～幼児教育をもっと豊かに～』の告知は、私幼時報にも掲載し、広く周知に努めた。(7) こどもと家族の健康 (子どもと家族が健康で快適であるために生活づくりを応援する情報発信)：PTA しんぶん 11 月号 4 面にて、こどもが まんなか PROJECT のロゴマークを作成いただいた安西水丸氏の紹介とともに、安西水丸氏作の絵本プレゼント企画を実施し、50 名の購読者の方へ絵本を送付した。(8) その他：こどもが まんなか PROJECT のロゴを用いた、ボー

ルペンとクリアファイルを作成し、各 100 円 (税込) で販売することで、本プロジェクトへの参加意識を高めた。

2. プロジェクト啓発事業／(1) こどもが まんなか PROJECT アワードについて：平成 29 年度に開催したこどもが まんなか PROJECT アワードの審査を行ない、最優秀賞 5 園、優秀賞 20 園を決定、PTA しんぶん 6 月号で表彰園の紹介、7 月号と 9 月号にて最優秀賞 5 園からの受賞に際しての感想を掲載し、全国に受賞園の取り組みを共有した。また 12 月 10 日 (月) に開催した第 33 回 PTA 全国大会にて、受賞園代表として東京都・認定こども園 多摩川幼稚園を表彰し、活動内容の報告をおこなっていただいた。また今年度も第 3 回こどもが まんなか PROJECT アワードとしてアワード事業を継続しており、11 月に都道府県団体事務局宛に案内を発出している。募集期間を今年度末までとしているため、次年度に審査・表彰を行なう予定。(2) 協賛・後援団体 (企業) の募集について：月 1 回程度、タナベ経営との打合せを通じて協賛を希望する企業や団体を紹介していただき、毎回検討をしている。(3) 各地区並びに各都道府県私幼団体との協力事業についての検討：各都道府県団体からのこどもが まんなか PROJECT 協力金を各地区、都道府県との協力事業に還元をしている。(4) その他

一般会計収支計算書
平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位：円)

科 目	予算額 A	決算額 B	(A－B)	備 考
①事業活動収入の部				
1 基本財産運用収入	◀ 15,000 ▶	◀ 4,036 ▶	◀ 10,964 ▶	
基本財産運用収入	15,000	4,036	10,964	基本積立金・大河内・由田利息
2 特定資産運用収入	◀ 30,000 ▶	◀ 15,520 ▶	◀ 14,480 ▶	
特定資産運用収入	30,000	15,520	14,480	国際交流・財政運用・退職給付利息・災害積立利息
3 受取会費収入	◀ 180,000,000 ▶	◀ 175,226,070 ▶	◀ 4,773,930 ▶	
一般会費	180,000,000	175,226,070	4,773,930	(会費1園12,000円＋園児70円×加盟園児数)加盟園数
4 事業収入	◀ 27,000,000 ▶	◀ 32,121,457 ▶	◀ △ 5,121,457 ▶	
研修会費	14,000,000	18,010,000	△ 4,010,000	研修会等費・研修会・職員研修会・役員研修会等費(研修会費)
保険事務手数料	8,000,000	8,059,911	△ 59,911	JK保険
受託事業収入	5,000,000	6,051,546	△ 1,051,546	未収入金・文部科学省委託事業
5 受取補助金等収入	◀ 0 ▶	◀ 0 ▶	◀ 0 ▶	
団体研究助成金	0	0	0	
6 受取寄付金収入	◀ 6,000,000 ▶	◀ 4,500,000 ▶	◀ 1,500,000 ▶	
寄付金収入	6,000,000	4,500,000	1,500,000	
7 雑収入	◀ 830,000 ▶	◀ 3,910,180 ▶	◀ △ 3,080,180 ▶	
受取利息	30,000	108	29,892	預金利息
その他	800,000	3,910,072	△ 3,110,072	推薦料・冊子販売等、九州地区会費捐金返金
8 他会計からの繰入収入	◀ 0 ▶	◀ 0 ▶	◀ 0 ▶	
9 財政運用積立預金取崩収入	◀ 16,000,000 ▶	◀ 16,000,000 ▶	◀ 0 ▶	
10 退職給付引当預金取崩収入	◀ 500,000 ▶	◀ 0 ▶	◀ 500,000 ▶	
11 災害積立預金取崩収入	◀ 3,000,000 ▶	◀ 5,380,000 ▶	◀ △ 2,380,000 ▶	大原府左郡地区、7月事例、会費20・21・24号、北海道知事会費等
事業活動収入計	233,375,000	237,157,263	△ 3,782,263	
②事業活動支出の部				
1 事業費支出	◀ 187,450,000 ▶	◀ 182,652,940 ▶	◀ 4,797,060 ▶	
①総務関係事業	(77,400,000)	(74,113,577)	(3,286,423)	
総会	7,200,000	7,180,381	19,619	会議費・旅費
理事会	12,000,000	11,976,208	23,792	会議費・旅費
常任理事会	7,000,000	6,108,721	891,279	会議費・旅費
団体会長会	2,550,000	2,537,896	12,104	
監事会	500,000	446,520	53,480	会議費・旅費
総務委員会	3,300,000	3,000,345	299,655	会議費・旅費
諸会議費	11,500,000	10,843,199	656,801	会議費・旅費
全私連	1,100,000	1,000,000	100,000	分担金・全私学連合
国際交流事業	300,000	100,000	200,000	分担金・会議費
全番連	250,000	230,000	20,000	分担金・全私立学校審議会連合会
表彰事業	2,800,000	2,755,078	44,922	勤続表彰
出張費	2,000,000	1,682,550	317,450	旅費等
渉外費	1,500,000	1,461,180	38,820	慶弔費等
要覧事業	1,500,000	984,699	515,301	作成費
地区活動事業	15,900,000	15,760,000	140,000	各地区に対する活動費
奨励事業	8,000,000	8,046,800	△ 46,800	各都道府県に対する奨励金
②政策関係事業	(55,800,000)	(54,225,492)	(1,574,508)	
政策委員会	2,300,000	1,616,639	683,361	会議費・旅費
都道府県政策担当者会議	3,500,000	3,479,621	20,379	会場費・旅費
予算対策費	25,000,000	24,596,647	403,353	予算対策活動
政策推進費	25,000,000	24,532,585	467,415	政策推進活動
③教育研究関係事業	(100,000)	(100,000)	(0)	
教育研究委員会	100,000	100,000	0	
④経営研究関係事業	(21,300,000)	(20,535,427)	(764,573)	
経営研究委員会	7,300,000	7,071,196	228,804	会議費・旅費・幼稚園ナビ・就業規則等
設置者・園長研修会	10,000,000	9,691,119	308,881	会場費・旅費等
後継者育成研修会	1,000,000	850,961	149,039	
経営実態調査	3,000,000	2,922,151	77,849	調査費
⑤広報関係事業	(3,300,000)	(3,219,200)	(80,800)	
広報委員会	100,000	100,000	0	
会報等発行事業	3,100,000	3,019,200	80,800	
インターネット事業	100,000	100,000	0	
⑥102系関係事業	(2,300,000)	(1,809,265)	(490,735)	
102系委員会	1,300,000	890,087	409,913	会議費・旅費
都道府県代表者会議	1,000,000	919,178	80,822	
⑦認定こども園関係事業	(7,800,000)	(6,819,979)	(980,021)	
認定こども園委員会	2,300,000	1,325,455	973,545	会議費・旅費
認定こども園研修会	5,500,000	5,493,524	6,476	会場費・旅費等
⑧団体教育研究関係事業	(16,450,000)	(16,450,000)	(0)	
地区別教育研究会	16,000,000	16,000,000	0	
全日私幼連係分	450,000	450,000	0	地区教研大会記念品
⑨災害費関係事業	(3,000,000)	(5,380,000)	(△ 2,380,000)	
災害費	3,000,000	5,380,000	△ 2,380,000	7月事例、会費20・21・24号、北海道知事会費等
2 管理費支出	◀ 42,750,000 ▶	◀ 40,536,164 ▶	◀ 2,213,836 ▶	
給料	23,000,000	22,987,197	12,803	
退職金	500,000	0	500,000	
福利厚生費	3,700,000	3,694,553	5,447	社会保険等
事務所費	2,000,000	1,790,469	209,531	共益費・水道光熱費等
印刷費	400,000	302,160	97,840	各種印刷費
消耗品費	2,200,000	1,923,842	276,158	
賃借料	2,000,000	1,658,646	341,354	印刷機等リース代
通信費	1,700,000	1,300,153	399,847	各種通信費・発送費
交通費	500,000	456,782	43,218	都内交通費
租税公課費	2,950,000	2,948,000	2,000	法人税・消費税等
支払手数料	300,000	249,048	50,952	振込手数料等
備品費	500,000	400,000	100,000	P C等
顧問料	2,500,000	2,401,804	98,196	会計士・社労士
雑費	500,000	423,510	76,490	
3 他会計への繰出支出	◀ 100,000 ▶	◀ 0 ▶	◀ 100,000 ▶	
他会計(こどもP J)へ繰出支出	100,000	0	100,000	
4 特定預金繰入支出	◀ 4,000,000 ▶	◀ 799,480 ▶	◀ 3,200,520 ▶	
財政運用積立預金繰入支出	3,000,000	0	3,000,000	
退職給付引当預金繰入支出	500,000	299,480	200,520	
災害積立預金繰入支出	500,000	500,000	0	
5 予備費支出	◀ 975,000 ▶	◀ 0 ▶	◀ 975,000 ▶	
事業活動支出計	235,275,000	223,988,584	11,286,416	
当期収支差額	△ 1,900,000	13,168,679	△ 15,068,679	
前期繰越収支差額	36,267,928	36,267,928	0	
次期繰越収支差額	34,367,928	49,436,607	△ 15,068,679	

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲について

資金の範囲には現金預金、立替金、未収入金、未払金、預り金及び前受金を含めております。
なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりです。

2. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりであります。

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	16,031,575	44,584,393
立替金	0	0
未収入金	21,113,583	6,159,546
合計	37,145,158	50,743,939
未払金	0	0
預り金	877,230	1,307,332
前受金	0	0
合計	877,230	1,307,332
次期繰越収支差額	36,267,928	49,436,607

認定こども園「新制度移行 検討・準備」研修会 開催

5月15日、東京・私学会館において、「認定こども園『新制度移行 検討・準備』研修会～新制度に移行する準備を整える～」が開かれ、全国から130名の先生方が参加されました。はじめに、安達譲全日私幼連副会長より開会のあいさつがあり、濱名浩認定こども園委員会委員長による概要説明の後、講演に入りました。

研修会の概要は次のとおりです。

講演Ⅰ：「認定こども園を取り巻く現状」

文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官
岩岡寛人氏

預かり保育や2歳児の受け入れ、幼児教育・保育の無償化についての話を中心に、認定こども園の現状について詳細な説明がありました。

講演Ⅱ：「認定こども園移行のために必要な手続きと内容」

認定こども園委員会委員 安本照正氏



移行に必要な事務手続きや見直しが必要な園環境等、認定こども園へ移行するにあたり取り組むべき事項について詳細な説明がありました。

グループワーク：「移行に向けて、諸課題を明確にして対応策を考える」

各グループで新制度移行に対する参加者各々の関心に沿った項目や懸念事項を共有し、活発な意見交換や知識交換がなされました。

保育力の向上のために

資質向上の取組の証明に

キャリアパスや免許更新のために
研修の記録を大切に残しておきましょう！

監修 公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

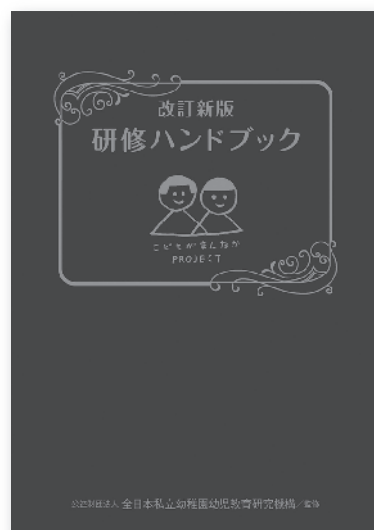
改訂新版 研修ハンドブック

4145301 **648円**（本体 600円）

●B6判
●112ページ

ご用命はお近くの書店、またはワンダー販売会社まで。

株式会社 世界文化社 ワンダー CS 事業本部
TEL03-3262-5128



10 月から始まる幼児教育・保育の無償化に向けて 理解を深める

6月4日、東京・グランドヒル市ヶ谷において全日私幼連の幼児教育無償化等に関する説明会が開催されました。今年の10月から始まる幼児教育・保育の無償化に向けて、制度内容への理解を深め、各園で準備しなければならない事項等を伝えるために、各都道府県より代表者に出席いただき、約110名が参集しました。

まず始めに、先崎卓歩文部科学省初等中等教育局幼児教育課長より「無償化が始まるにあたり、幼児教育の質を担保・向上させなければならない。そのためにもチャレンジビジョンに取り組んでいく必要がある」とあいさつがありました。続いて、香川敬全日私幼連会長より「この説明会の内容を加盟園の皆様にも広く周知し、無償化へ向けて体制を万全に整えてほしい」とあいさつがありました。

講演1では「幼児教育の無償化～制度の概要と必要な準備～」と題して、岩岡寛人文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官からお話がありました。幼児教育の重要性を踏まえた無償化の経緯や制度の概要、私学助成園や新制度園での対応など詳細に説明がありました。

講演2では「解説編：幼児教育の無償化について」と題して、岩田知也全日私幼連専務理事からお話が



ありました。無償化によって発生する具体的な事務手続きや、給食費をはじめとした園単位で検討しなければならない事項について、私学助成園と新制度園に分けて詳細に説明があり、説明会は終了しました。

次ページより、岩岡寛人文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官の講演の概要を掲載します。なお、説明会当日に配布した資料と説明の様子を撮影した動画は各都道府県団体事務局様へ共有しています。ご覧になりたい場合は、各都道府県団体事務局様へお問い合わせください。

CHAPPY 園児管理シリーズ クラウド対応

園児管理システム

園長

先生

出席の管理
未就園児管理
バスコース管理
承認機能完備

パソコン内ではなく
データセンターでの
管理になるので
セキュリティに
優れています。

個人カリキュラム
検査記録
課外活動一覧
指導計画

パソコンでも
タブレットでも
使えます！

PC

タブレット

園で役立つ機能が満載！ しかも簡単入力で時間削減。
チャイルド社の園児管理システムは、
忙しい先生を応援するためのシステムです。

開発・販売 株式会社 **チャイルド社** コンピュータ部

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-39-11 TEL 03-3333-2345
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>

幼児教育無償化の制度の具体化に向けた方針の概要

平成30年12月28日 関係閣僚合意

○ 対象者・対象範囲等

(1) 幼稚園、保育所、認定こども園等

● 3～5歳：幼稚園、保育所、認定こども園、地域型保育、企業主導型保育の利用料を無償化

- ※ 新制度の対象とならない幼稚園については、月額上限2.57万円（注：国立大学附属幼稚園0.87万円、国立特別支援学校幼稚部0.04万円）まで無償化
- ※ 開始年齢 … 原則、小学校就学前の3年間を無償化。ただし、幼稚園については、学校教育法の規定等に鑑み、満3歳から無償化
- ※ 保護者から実費で徴収している費用（通園送迎費、食材料費、行事費など）は、無償化の対象外。食材料費については、保護者が負担する考え方を維持し、施設による実費徴収を基本。低所得者世帯等の副食費の免除を継続し、免除対象者を拡充（年収360万円未満相当世帯）

● 0～2歳：上記の施設を利用する住民税非課税世帯を対象として無償化

(2) 幼稚園の預かり保育

● 保育の必要性の認定を受けた場合、幼稚園に加え、利用実態に応じて、月額1.13万円までの範囲で無償化

- ※ 保育の必要性の認定 … 2号認定又は2号認定と同等の認定（無償化給付のために新たに法制化）
- ※ 預かり保育は子ども・子育て支援法の一時預かり事業（幼稚園型）と同様の基準を満たすよう指導・監督

0

(3) 認可外保育施設等

● 3～5歳：保育の必要性の認定を受けた場合、認可保育所における保育料の全国平均額（月額3.7万円）までの利用料を無償化

- ※ 認可外保育施設のほか、一時預かり事業、病児保育事業及びファミリー・サポート・センター事業を対象
- ※ 上限額の範囲内において、複数サービス利用も可能。また、幼稚園が十分な水準の預かり保育を提供していない場合などには、幼稚園利用者が認可外保育施設等を利用する場合も無償化の対象
- ※ 都道府県等に届出を行い、国が定める認可外保育施設の基準を満たすことが必要。ただし、経過措置として5年間の猶予期間を設定

● 0～2歳：保育の必要性があると認定された住民税非課税世帯の子供たちを対象として、月額4.2万円までの利用料を無償化

○ 就学前の障害児の発達支援

- 就学前の障害児の発達支援を利用する子供たちについて、利用料を無償化
- 幼稚園、保育所、認定こども園等とこれらの発達支援の両方を利用する場合は、ともに無償化

○ 実施時期 2019年10月1日

○ その他

- 支払方法：新制度の対象施設 … 現物給付を原則。
未移行幼稚園 … 市町村が実情に応じて判断（現物給付の取組を支援）
- 今般の無償化を契機に、質の向上を伴わない理由のない保育料の引上げが行われないよう周知

1

対象者・対象施設

2 制度の全体像

共働き世帯等（保育の必要性あり）

	幼稚園	預かり保育	認定こども園	保育所・地域型保育	企業主導型保育	認可外保育施設・一時預かり事業等
 0歳～2歳 (住民税非課税世帯)			○	○	○	○
 満3歳児 (住民税非課税世帯)	○	○	○	○	○	○
 満3歳児 (上記以外)	○		○ (1号のみ)			
 3歳～5歳 (満3歳を迎えた次の4月～)	○	○	○	○	○	○

専業主婦世帯（保育の必要性なし）

	幼稚園	預かり保育	認定こども園	保育所・地域型保育	企業主導型保育	認可外保育施設・一時預かり事業等
 満3歳～5歳 (満3歳を迎えてから～)	○		○			

2

幼児教育・保育の無償化後の「保育料」について

2 制度の全体像

< 無償化前 >				< 無償化後 >		
		保 育 料 (月額)		保 育 料 (月額)		預かり保育等利用料 (月額)
子ども 子育て 支 援 新制度 対象園	私学助成園	満3歳～5歳 (新制度未移行幼稚園)	所得に応じて還付 (最大25,700円)	所得にかかわらず 25,700円を上限に無償化 ※保育料が上限額を上回る場合の 差額は引き続き保護者の負担	+	所得にかかわらず 11,300円を上限に無償化 ※共働き家庭等の場合のみ
	1号	共働き家庭以外等の 満3歳～5歳 (新制度幼稚園、認定こども園)	所得に応じて徴収 (最大25,700円)	所得にかかわらず 0円 (不徴収)	+	所得にかかわらず 11,300円を上限に無償化 ※共働き家庭等の場合のみ
	2号	共働き家庭等の 3歳～5歳 (保育所、認定こども園)	所得に応じて徴収 (平均37,000円)	所得にかかわらず 0円 (不徴収)		
	3号	共働き家庭等の 0歳～2歳 (保育所、認定こども園)	所得に応じて徴収 (平均42,000円)	住民税非課税世帯のみ 0円 (不徴収)		

※ 認可外保育施設等：3歳～5歳は月額37,000円まで、0歳～2歳（住民税非課税世帯）は月額42,000円までの利用料を無償化。

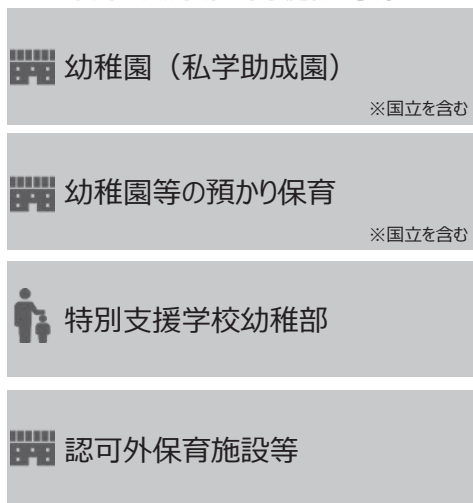
幼児教育・保育無償化の対象施設と無償化の方式について

5 幼児教育・保育の無償化

子ども・子育て支援新制度対象施設



その他の無償化対象施設・事業



子どものための教育・保育給付の拡充

利用者負担額をゼロに（子ども・子育て支援法施行令の改正）
⇒ 公定価格の全額を施設型給付費等により公費負担し、教育・保育を現物給付化。なお、公定価格外の特定保育料（上乗せ徴収）の有無は、幼稚園等ごとに異なりうる。

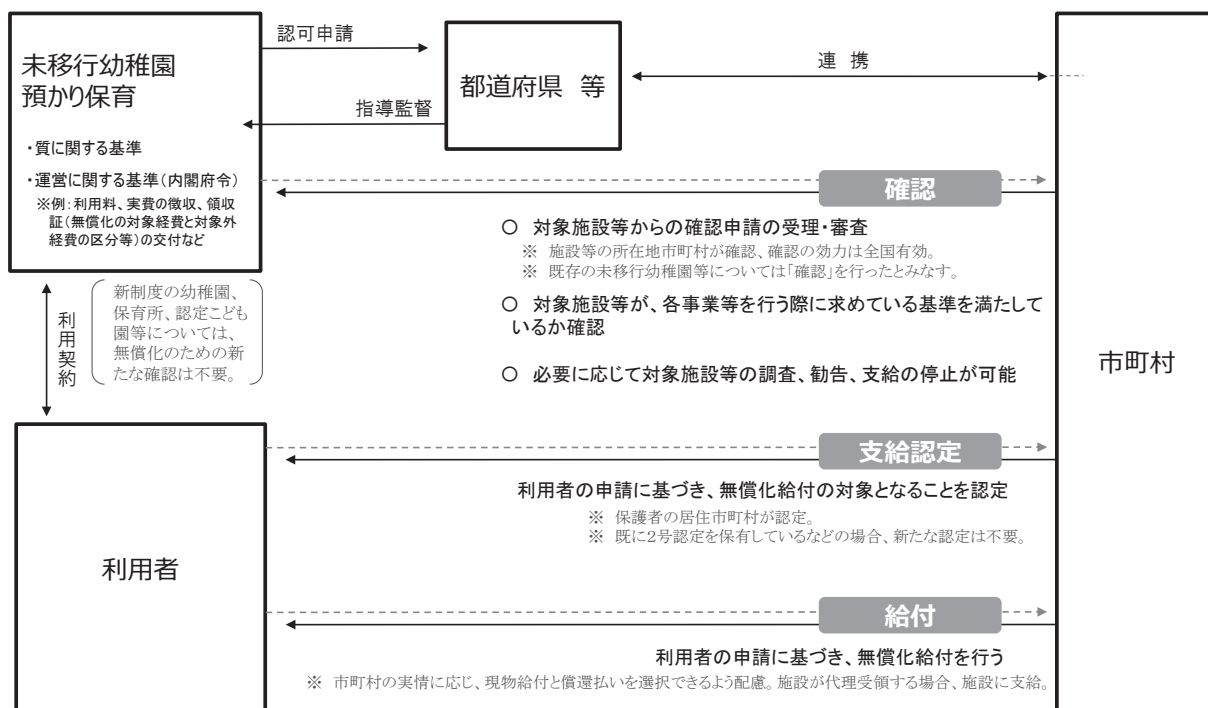
子育てのための施設等利用給付の創設

子ども・子育て支援法を改正し、上記施設・事業の利用に係る「子育てのための施設等利用給付」を創設。

⇒ 施設等で定める利用料の一定額まで施設等利用費を支給（日用品費、行事参加費、給食費、通園費は対象外）。

新たな無償化給付の主な事務（私学助成園・預かり保育）

2 制度の全体像



預かり保育の無償化の概要

3 新制度園（預かり保育）

対象者

幼稚園、認定こども園、特別支援学校幼稚部（以下「幼稚園等」という。）の在籍園児のうち、以下に該当する子ども

- ① 満3歳以後の最初の3月31日を経過した保育の必要性のある子ども（新2号）
- ② 満3歳児（①以外の子ども）のうち、保育の必要性があり、かつ市町村民税非課税世帯の子ども（新3号）

無償化上限額 ※金額は全て月額（以下同じ）

利用者の利用日数×450円を支給限度額（下記の額が支給額の上限）として、預かり保育の利用に要した費用を支給

- ① の子どもの支給限度額 ⇒ 1.13万円（認可保育所の利用料の全国平均額（月額3.7万円）と幼稚園等の無償化上限額（2.57万円）の差額）
- ② の子どもの支給限度額 ⇒ 1.63万円（認可保育所の利用料の全国平均額（月額4.2万円）と幼稚園等の無償化上限額（2.57万円）の差額）

支払い方法

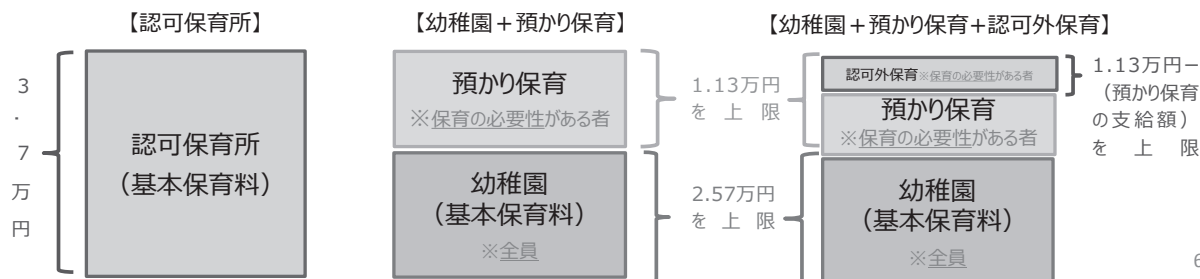
償還払いが通常と考えられるが、市町村の判断で現物給付も可

幼稚園等利用者の認可外保育施設等の利用について

- ・ 幼稚園等が預かり保育を実施していない場合や、預かり保育が十分な水準ではない場合（教育時間を含む平日の預かり保育の提供時間数が8時間未満又は開所日数200日未満）に限り、認可外保育施設等の利用も無償化の対象
- ・ その場合の上限額は預かり保育の無償化上限額（1.13万円又は1.63万円）から預かり保育の無償化支給額を差し引いた額

預かり保育の実施基準

幼稚園教育要領等に基づき実施し、一時預かり事業同様の年齢別職員配置基準を満たすことが必要。質の確保・向上のため、一時預かり事業（幼稚園型）と同様の施設・設備等の基準を満たすよう都道府県等の幼稚園等所管部局が指導・監督。



6



チャイルドブックの月刊保育雑誌

Pot

ポット

定価 本体 1,000円＋税

<http://www.childbook.co.jp/pot/>

2019

大きくなって読みやすく!

リニューアル!

ワンテーマ 20ページの巻頭大特集を毎号掲載!

チャイルド本社

〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21

TEL 03-3813-2141 FAX 03-3814-3392

<http://www.childbook.co.jp/pot/>

ご注文は、貴園担当のチャイルドブック販売店または書店まで。

私幼時報では、令和元年5月号から10月号の6回にわたり、平成30年10月20日に開催された東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)と、SGU戦略的パートナーシップ大学プロジェクトストックホルムチーム、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構、東京大学教職支援ネットワークによる合同シンポジウム「市民としての子どもを考える教育の可能性～スウェーデンにおけるレッジョ・インスパイアの幼児教育に注目して～」の内容を報告します。先月号に引き続き、ストックホルム大学講師・研究員のBodil Halvars(ボーディル・ハルバース)氏と、Ingela Elfstrom(インゲラ・エルフトロム)氏の講演を報告いたします。なおこの報告は便宜上一人称で書きますが、全て引用という訳ではなく、一部川原恒太郎先生(大分・ひまわり幼稚園)が加筆・修正をしておりますことをご了承ください。当日配付されたスライド資料は、発達保育実践政策学センターのシンポジウム報告ページ(http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/project_report/symposiumseminar/sympo_181020/)からダウンロードできますので、ご参照ください。

ストックホルム大学講師・研究員 Bodil Halvars(ボーディル・ハルバース)氏、
Ingela Elfstrom(インゲラ・エルフトロム)氏／講演概要

学びが関係性のある場であるということ：スウェーデンにおけるレッジョ・インスパイアの幼児教育・保育の経験から③

Bodil Halvars 先生講演

【持続可能な発達・発展】

これまで研究者の立場で歴史的な経緯を話してきました。持続可能な発達・発展には、生態的・社会的・経済的の3つの側面があります。まず生態的な側面が成立しないことには他の側面は成立しません。ですから必ず生態的な側面から持続可能な開発というものが語られますし、Ingelaも私も生態系の側面から持続可能性について語っているのです。

私たちと一緒に過ごしているのは小さな子どもたちです。私たちは子どもたちが将来へ希望をもち育ってほしいと願っているのです。生態的な側面から語ることを重要視しています。そして、子どもたちが探求活動を行う上で生態的な側面は経済的、社会的な側面よりも探求しやすいので、その視点を軸に子どもたちを市民として育てているのです。

【探求的なアプローチ】

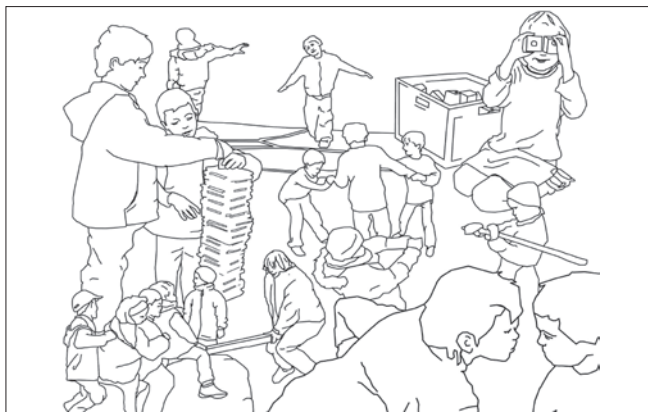
学びが関係のある場であることを証明するために、「子どもと倫理」と「木のプロジェクト」という2つの研究があります。まずこれらの研究にも使われて

いるプリスクールの教育における探求的なアプローチについてお話します。この探求的なアプローチは私たちが定義したもので、子どもたち自身が発した問いを開始点とします。このアプローチのねらいは保育的探求と教育的探求の2つがあります。教師にとって、研究を始める前に研究の流れを、該当する分野や領域から継続的に学ぶことが大変重要です。また、常に子どもたちの心に寄り添い、協力的・共同的に学ぶというプロセスも求められます。つまり教師は子どもたちが生み出す仮説や問いを受け止め、同時に揺さぶり、試し、問い返さなければならぬのです。そこにさらに教育の環境や素材、ドキュメンテーションの要素が加わることで、探求的なアプローチが行われるのです。

【出合いの倫理】

これが私の修士論文の表紙です。私はこの中からどうやって倫理というものを見出せばいいのだろうと悩みました。それはこの絵のあらゆるところで倫理的問題が生じていて大変だということです。博士課程の論文を提出するまでに4年間あり、まずエスノグラフィーを使った研究から始めました。1

年間プリスクール２つのクラスに入り、フランスのユダヤ系の哲学者であるエマニュエル・レヴィナスの「出会いの倫理」という枠組みで探究をしました。出会いの倫理はどのように他者と出会うのかという問いでした。哲学的な枠組みをプリスクールクラスに適応することは大変な仕事でしたが、出会いの倫理を見出しながらクラスに入りました。カテゴライズしていくとあるルールと枠組み・秩序を見出しました。子どもたちが遊びの中で出会うということを見ていき、自然の中で動物と出会うということも見続けました。



【木のプロジェクトをマッピング】

博士論文提出後に、持続可能性という領域に研究のテーマを移し、関係の場として木のプロジェクトや、Ingela さんとは学びとしての場に焦点を移し、子どもたちや教師が出会うさまざまな物とのつながりや、まとまりをマッピングするという作業を行いました。マッピングして見えてきたのは、自分自身の体と木とのつながりや、子どもが自分自身と家族、親族とのつながりや、木と木の一生とのつながりなどです。子どもたちは自分自身と木が生えている場所とのつながりや、青虫やいも虫など微小な世界とのつながりも見出していました。

【問いを真剣に受け止める】

子どもの声を受け止める研究を取り入れ、木に関して抱く問いや、木との間にどのような関係性を構築するかにも興味を持ちました。日常的に子どもの問いを真剣に受け止めること自体にも興味を持ちました。探究的なアプローチを可能とするにはどのよ

うな条件が必要なのかも重要な視点になります。子どもの問いにも興味を持ち、教育上の問いも重要だと考えました。

【木のプロジェクト】

子どもたちが長期休暇に入る前に「木の一部を持ってきてね」とお願いしたところ、多種多様な木片や種子と木の実、樹皮の断片が集まりました。そこから子どもたちの探究が始まり、子どもたちは五感を使い、いろいろな発想で皆に説明しました。

子どもたちが描いた絵をよく見ていくと、自分自身の体と木の間につながりを見出していく様子もあり「葉っぱは髪の毛のようなもの」「根っこは足のようなもの」「松脂は血のようなもの」「樹皮は皮膚のようなもの」「木々の種というのは心臓のようなもの」などの声も出てきました。ある子が描いた絵の説明では「松脂は木の中に集められて、それから木全体に送り出されるんだ。松脂が集められる場所は、人間の心臓のようなもので枝は腕のようなもの」と説明していました。教師は木のプロジェクトについて、どのようにこれを理解し、次に展開して、どのように揺さぶれば良いのかを検討し粘土を提供することにしました。

【木の内部を粘土で】

粘土を渡すときに「粘土を使って木の中に何があるのか、教えてね」と伝えました。木の見えない内部を想像し制作していく中で作られたものは、水もあれば空気や根っこ、心臓や鳥の巣、松脂、木の１つの小さな穴に秘密の部屋というのもありました。

【木々を生活に】

次に、木々と自分たちの家族や親族のつながりを話す様子についてお話しします。

「同じ種類の木々というのは１つの家族だと思う」と言った子がいました。「お父さんとお母さんの木は、子どもの木よりも高く、お父さんの木が一番高い」と語る子もいました。「松の木がお父さんで、樺の木がお母さん。ほかの木々は子どもたち」と言う子もいました。「木々の中には種を落とし、やが

て子どもになるのもあれば、一人で生えてくるものもある」という子もいました。「風が吹いて枝が揺れているのはお互いに話し合っているの」と言う子もいました。他にも木が生える場所と自分たちの住む場所とのつながりも見出していました。

【仕組みの仮説】

「自分が想像する木、ファンタジーの木を描いてね」とお願いすると、子どもたちが経験した生活や考えが描かれていました。子どもたちの創造性を歓迎し木のプロジェクトの中に取り入れました。

ある絵には「雨が降ることで地面の中に水が落ちる。アリは木が水を集める手助けをしていて、水を木のエレベーターのところへ持っていき、水は木のエレベーターによって、上へ水を運び上げる」と、木と水がどのように汲みあがり葉っぱのところに行くのかを、アリが木の幹を登っていく様子から考えだした説明がなされていました。

子どもたちは、地面の下とのつながりにも興味を持ち「雨が降って、雨が木の根の中に落ちていく。根っこには門があり、門が開くと水は空気に引っ張られて木の幹を登っていく。木の葉っぱは空から空気を引き寄せ、空気は地面に下り水を運ぶ」と考える子もいました。

【葉っぱの実験】

次に葉っぱに注目し「なぜ、葉っぱというのは秋

になって冬になると、いつの間にかなくなっているんだろう」と感じた子どもたちが実験をしています。タッパーに2つ葉っぱを入れ、ミミズの入っているタッパーと入っていないタッパーで、葉っぱがどこに消えていくのかということを実験し、ミミズとのつながりも見出していきます。探究的アプローチも子どもたちと一緒に探究していきました。

【木から動物へ】

「冬は木をどのように探究すればいいかな」と子どもたちに問うと「外に出て木の近くで住む動物たちを見に行けば」と答えが出ました。森に出掛けたのですが残念ながら何も見つけることができませんでした。都会の園だったので動物は見つけられませんでした。雪の上に鳥やリスの足跡など動物の痕跡を見つけました。子どもたちは対話を始め「冬の毛をしたリスと夏毛のリス」「眠っているヤマアラシ」「キツツキ」などの絵を描きました。

【鳥のハンドブック】

鳥に興味を持った2人が、鳥の本を作り始めました。すごく熱中し1日に何ページも描き、いろいろな種類の鳥が載った「鳥のハンドブック」を作りました。私は印象に残っていたので、後日「あのハンドブックまた見せてくれない?」と言ったら、「ハンドブックって何のこと?」「鳥のハンドブックを描いていたじゃない」「えっ、そんなの知らないよ」

(株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田2-11-8
幼児教育事業部

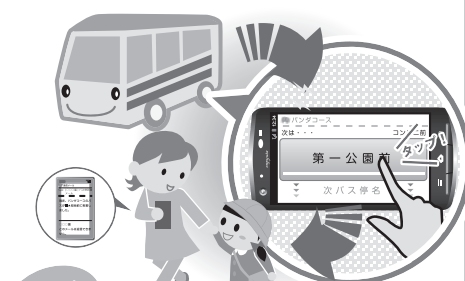
お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-833-415

園ぴゅう太のメールサービス



らくらくメール

園から保護者へらくらくメール送信！
組別・個別送信、既読確認もできます。
サーバー二重化で、いざという時も安心です。



らくらくバスメール

スマートフォンでバスメールを送信！
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。
タップするだけでメール送信できます。

心機一転！
リニューアル

ぜ～んぶ学研に
おまかせ!!

オリジナル！
キャラクター
ロゴ

Flashで
動画！

らくらくホームページ

目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新
もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にも
システム併用でご対応いたします。

とのことでした。担任に聞くと「ああ、あれね、もうどっかいきましたね」「ハンドブック自体が大事なのではなくて、ハンドブックを作っていくプロセスが大事ですから」と答えが返ってきました。

【蕾の観察から栽培へ】

春が訪れて蕾が開く様子を見て描き始めました。子どもたちは、すごく蕾が開くのを楽しみに待ち、毎朝楽しみに駆け寄って「まだ蕾が開かない」「今日開くかな」と観察していました。彼らは種が発芽する踊りを作り、踊りのポーズの彫刻を作りました。教師たちは子どもたちの考えや思いを表現できるよういろいろなものを提供していきました。

そこから、彼らは栽培のほうに興味を持ち、育つ力を探究するようになりました。しばらく栽培に熱中し、いろいろな植物を育て保護者にも売りました。売ったことで利益も手に入れることができました。

【葉っぱの仕組み】

植物を育て始めると「葉っぱはどうなっているのかな」「何で葉っぱがあるんだろう」「葉っぱは何をしているの」という問いが出てきて、教師は光合成に触れることになると考え始めました。学校で光合成について習うのは12歳ぐらいなのでドキドキと興奮の思いで導入していきました。

彼らは葉っぱを観察することを通して、細胞とか葉緑素、葉緑体、太陽光、でんぷんという言葉を使いながら「葉っぱは何をしているのだろう」について話し合うことになりました。

【葉っぱと呼吸】

また、1人の子が葉っぱと人間のつながりを知っていたらしく、葉っぱから呼吸ということにも話し合いが広がっていきました。描いた絵での説明では「酸素は葉でできている。それが緑のところ。葉が茶色になると、葉に十分な酸素がなくなったということ。酸素は葉から生まれて人間の体に取り込まれ、呼吸をすることができる。葉っぱは人間だけではなくて、動物たちにも酸素を与えているんだよ」と彼は語りました。子どもたちは「木の上には栄養素が

あり、太陽が出ていることを喜び、春の訪れを待ち、雑木林には種がたくさんある」という詩を書く子もいました。

【木のプロジェクトから】

木のプロジェクトから人、栽培、種、葉、豊穰、堆肥化、ミミズ、根、森、動物、鳥、ミクロの世界、芽や蕾、光合成、育てる力、循環、生態系、生態学に子どもたちの興味・関心はつながっていきました。研究者として集めたデータを分析しマッピングを通して、子どもたちの意味形成が可視化されたことや、自らを取り巻く世界を探究し、体系化、秩序立てる要素も見出されました。学びの場にあるつながりや広がりとの関係が深まり新たなものを付け加えていくことも見られ、生命との出会いで関係の強さが増すこともわかりました。教育学的な観点から、子どもと教師の問いは相互に関連しながら生まれ、広範な探究の機会が開かれていることも見出されました。

【結論とさらなる問い】

子どもの問いが「木のプロジェクト」の原動力となり、教師は潜在的な学びを深め広げるための援助を行ってきました。今後は、保育的環境や素材、心理的側面についての意義や、教師が子どもと共に探求する類義など、研究者も学びの場にどう影響を与えるかのデータを取りたいと考えています。

さらなる2つの問いとして「プリスクールの中で、科学、持続可能性について探究的なアプローチを可能にするには」「子どもの声が聞こえ見えるようにするためには」を上げます。生命、自然、環境が、探究的な文脈の中で生じてくるためには、どのような注意深いアプローチが必要なのかは重要な問いです。加速度的に変化していく世の中で子どもたちが市民として生きていくためには、どのような育ちが必要であるのかも考えていきます。

最後に、たくさんの知識の写真と、子どもたちが大人になったときに直面しなければいけない課題、海の中に埋もれているゴミの写真を並べ、終えさせていただきます。ありがとうございました。

(大分県・ひまわり幼稚園／川原恒太郎)

テーマ：「統合ではなく、包括的？インクルーシブ教育ってなに？」

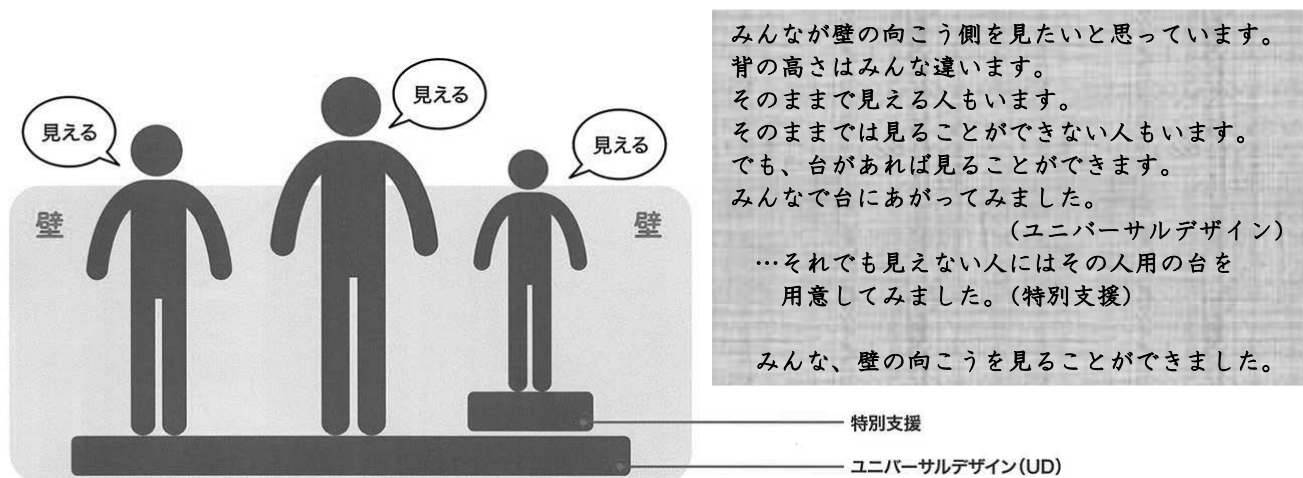
～子どもたち一人一人が多様であることを前提に、個々に応じた配慮をする。これまでの自園での取り組み～

高田 昌代(学校法人常磐会学園 幼保連携型認定こども園 常磐会短期大学付属いずみがおか幼稚園 教頭)

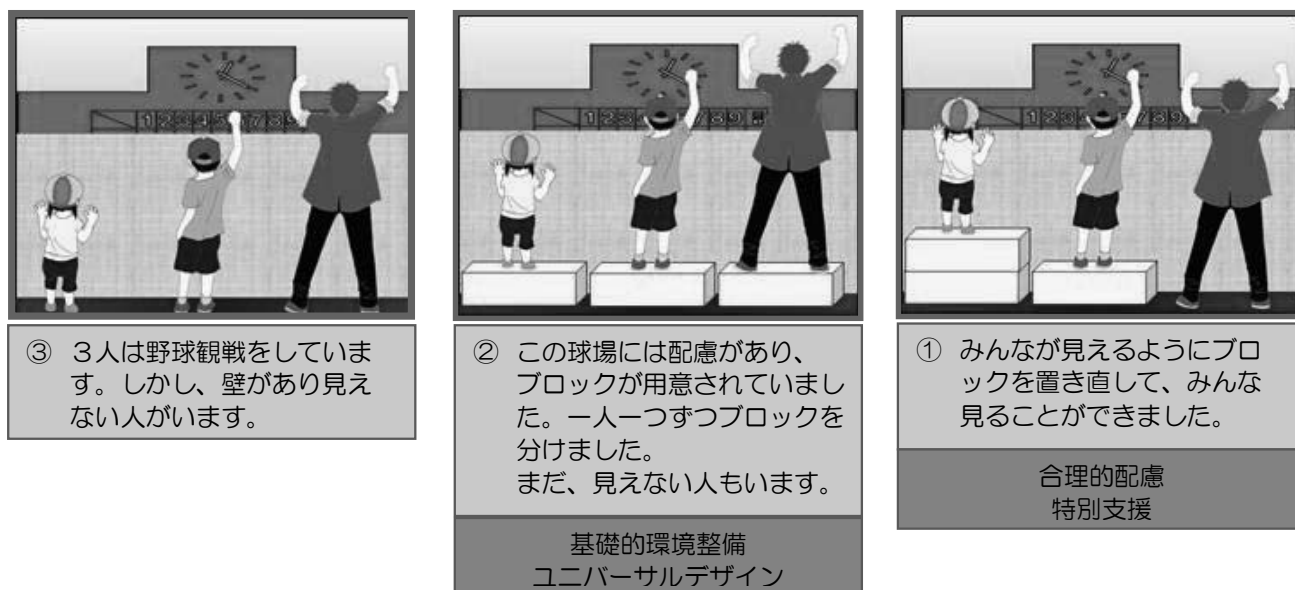
外村 麻美(学校法人常磐会学園 幼保連携型認定こども園 常磐会短期大学付属いずみがおか幼稚園 保育教諭)

特別支援学級のない就学前の教育施設(幼稚園・保育所・こども園など)では、今までも当たり前のように包括的な保育スタイルを実践してきました。本園でも個々に応じた対応や環境を整えながら集団としての生活や活動を進めてきました。試行錯誤しながら進む日々の中で、周りの子どもにもより良い環境となり、もちろん周りの子どもの負担にならないあり方を模索しています。

○ 本園での「インクルーシブ教育」「個々に応じた配慮」のとらえ方の基本スタンス



※この図は 島根県立瀬戸高等学校の HP を参考にさせていただいています。



※この図は 大阪府教育センターの HP を参考にさせていただいています。

○ 本園における『包括的な保育づくりのポイント』

ここでの包括的保育とは、どの子どもも安心して過ごせるための保育のことです。



区分	番号	具体的内容
ステップ1 【必修】 (集団)	1	刺激の少ない室内環境 (保育室の前面の掲示を減らす、カーテンで覆う など)
	2	準備物の掲示 (活動に必要なものをカード等で示す)
	3	一日の流れを掲示 (ホワイトボード等の活用、終わるとはすす など)
	4	活動の手順を具体的に掲示
基礎的環境整備 ユニバーサルデザイン	5	導入の工夫 (どの子どもも保育に巻き込む)
	6	園・クラスのシンプルな約束 (聞き方、態度、姿勢 など)
	7	だまりっこタイム
	8	行動に移す前に指示を与え、後でほめる。
ステップ2 【選択】 (集団)	9	短くほめる。
	10	簡潔に注意する。
	11	非言語で刺激の少ない保育を進める工夫 (手話、ジェスチャー、ひそひそ声 など)
	12	早く終わったら何をするのか、先に説明しておく。
基礎的環境整備 ユニバーサルデザイン	13	具体的な掲示 (はじまりと終わりを示す、タイマーの活用 など)
	14	話し方の活用 (声の大きさ、メリハリ、間の取り方 など)
	15	スモールステップで進める。
	16	振り返りの時間の設定
合理的配慮 特別支援	17	意欲的なとりくみを促す声かけ
	18	子ども主体の活動 (子ども同士で考え、思いを伝え合う場の設定)
ステップ3 【選択】 (個別)	19	肯定的な声かけ (認める、共感する など)
	20	好意に満ちた語りかけ (皮肉や嫌味を言わない)
	21	指示理解が弱い幼児に対し、あらかじめ絵カードなどの視覚教材を用意する。
	22	苦手さを補う工夫 (見本を掲示、個に応じたとりくみ方)
合理的配慮 特別支援	23	個人的な注意や指示などは、子どものそばに近づき静かに伝える。
	24	必要であれば間仕切りをしたり、別のコーナーを設けたりして個別対応のスペースを用意する。
	25	刺激の少ない座席を設ける。
	26	個別に到達目標を設定する。
オリジナル 個に応じて	27	
	28	
	29	
	30	

「リフレーミング」

～捉え方を変えてみる～

- ・ 図々しい→堂々としている
- ・ 飽きっぽい→好奇心旺盛、興味が広い など

「専門家とのディスカッション」

～専門家による来園指導～

ブール学院大学松久眞美教授、常磐会学園大学山崎徳子准教授による月1～2回来園指導、カウンセリングの実施。

「教医連携」

～教育と医療機関・専門機関との連携～

発達支援の専門機関、医療機関と情報を共有しあい一人の子どもを多角的な目で見守り、理解を深められるように。

「情報共有」

～同僚性の重視～

日々の職員間の会話を大切に、子どもの姿を語り合い、子どもの姿を共有しあうことで、保育中のその子の姿をみんなでみとりまもる。

いつもの生活の中でどんなことができるかな？

一人の子どもの幸せを、みんなで考えよう。

本日の発表では、子どもたちの現状をふまえて意識をもって取り組んできていることの一部です。まだまだ、発展途上の状態です。ご意見、ご指導いただき向上していきたいと考えております。どうぞ忌憚のないお声を聴かせてください。

経営実態調査が始まります～回答へのご協力をお願いします～

全日本私立幼稚園連合会では、今年度も『私立幼稚園・認定こども園経営実態調査』を実施いたします。広範に有効活用される大変重要な調査ですので、ご協力くださいますようお願いいたします。

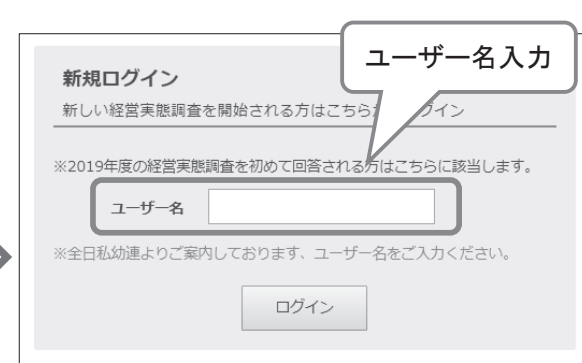
なお、本調査は紙媒体とインターネットの2つの方法で調査を行います。インターネットでの入力の際、ホームページ上に詳細な入力マニュアルを掲載しておりますが、特にお問い合わせの多い部分について下記の通りご説明いたします。

①調査画面へのログイン

本連合会ホームページ：<https://youchien.com/> より調査票画面へ移動します。



私立幼稚園経営実態調査のお願い



新規ログイン
新しい経営実態調査を開始される方はこちらからログイン
※2019年度の経営実態調査を初めて回答される方はこちらに該当します。
ユーザー名
※全日私幼連よりご案内しております、ユーザー名をご入力ください。
ログイン

トップページ右側のバナーをクリックします

ユーザー名を入力し、回答を開始します

※ユーザー名のお問い合わせは
keiei@youchien.comへお願いいたします。

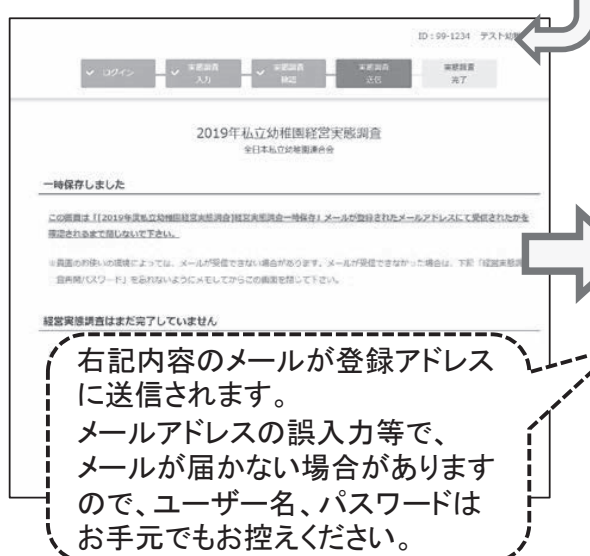
②実態調査入力の一時保存



ID : 999-9999 一時保存

ログイン 実態調査入力 実態調査確認 実態調査送信 実態調査完了

入力の途中で一時的に回答をやめ、回答内容を保存するためには、画面右上の『一時保存』を押下します。



ID : 99-1234 デストロイ

ログイン 実態調査入力 実態調査確認 実態調査送信 実態調査完了

2019年私立幼稚園経営実態調査
全日本私立幼稚園連合会

一時保存しました

この画面は、[[2019年度私立幼稚園経営実態調査]経営実態調査一時保存]メールが登録されたメールアドレスにて受信されたことを確認されています。ご確認ください。

※貴園のメールアドレスによっては、メールが受信できない場合があります。メールが受信できなかった場合は、下記「経営実態調査再開パスワード」を念のため入力しておくことをお勧めいたします。

経営実態調査はまだ完了していません

右記内容のメールが登録アドレスに送信されます。
メールアドレスの誤入力等で、メールが届かない場合がありますので、ユーザー名、パスワードはお手元でもお控えください。

ご記入頂いた経営実態調査は一時保存されました。

経営実態調査再開パスワードを発行致しました。
次回ログイン時に、黄色のフォームにて、ユーザー名、経営実態調査再開パスワードを入力して再度ログインを行なってください。

ユーザ名 : 99-9999
経営実態調査再開パスワード : 1234

経営実態調査の再開はこちらから↓
以下のURLをクリックするとログイン画面に変わります。
<https://answer.youchiensurvey.com/login>

以上、何卒、宜しくお願い申し上げます。

※一時保存をする際には必ずメールアドレスと電話番号の登録が必要となります。問1の前の基本情報の入力を必ずお願いいたします。

③実態調査入力再開

「一時保存」した実態調査は、トップ画面の「再編集用ログイン」より再開します。

新規ログイン
新しい経営実態調査を開始される方はこちらからログイン

※2019年度の経営実態調査を初めて回答される方はこちらに該当します。

ユーザー名

※全日私幼通よりご入力しておりましたユーザー名をご入力ください。

再編集用ログイン
一時保存もしくは、修正が必要な場合はこちらからログイン

※2019年度の経営実態調査を一時保存された方はこちらに該当します。
(2019年度分以外を含みません)

ユーザー名

※全日私幼通よりご入力しておりましたユーザー名をご入力ください。

再編集パスワード

※経営実態調査一時保存時に発行されたパスワードをご入力ください。

ご記入頂いた経営実態調査は一時保存されました。

経営実態調査再開パスワードを発行致しました。
次回ログイン時に、黄色のフォームにて、
ユーザー名、経営実態調査再開パスワードを入力して再度ログインを行なってください。

ユーザ名 : 99-9999
経営実態調査再開パスワード : 1234

②で送られてきたメールに記載されている
ユーザー名と経営実態調査再開パスワードを入力します。

④入力内容のエラーチェック

ID : 99-1234 テスト幼稚園

入力エラーがあります。下記の箇所をご確認ください。

【基本情報】「都道府県名」を選択してください

【基本情報】「設置者名」を入力してください。

都道府県
選択してください。

設置者
[種別] 設置主体（種別）を以下の中から選択してください。
5-1. 認定こども園・幼稚園型

☒ 小規模保育の実施 ※小規模保育を実施している場合は、チェックを付けて下さい

移行年月 新制度へ移行した年月を記入して下さい。
選択してください。 年 月

地域区分 地域区分を記入して下さい。
選択してください。

設置者名を記入して下さい。 幼稚園名を記入して下さい。

入力した内容にエラーがある場合、入力画面が再表示されますので、内容の修正を行ってください。

内容の修正が終了したら、「内容の確認に進む」を押下してください。入力した内容が表示されますので、内容を確認後、「メールを送信」を押下すると、回答は終了です。

ID : 99-1234 テスト幼稚園

2019年私立幼稚園経営実態調査
全日本私立幼稚園連合会

経営実態調査が完了しました。

経営実態調査へのご協力を頂きありがとうございます。
経営実態調査の答えと自己対照診断結果をご活用ください。

※自己対照診断について
4月1日～4月2日まで臨時経営実態調査の回答を受け付けておりましたので、
この機会から、自己対照診断結果を聞くことが、
最終の情報が表示される頃合いとなっております。

最終情報を確認する場合は、再度この画面から自己対照診断結果を聞くください。
・4月2日は月・システムで繋がったまま確認可能
・4月5日は月・全園長から集計された結果を確認可能

経営実態調査の【第6】収支調査が登録されていないと「自己対照診断ボタン」が表示されません。
下の「経営実態調査を確認する」ボタンから経営実態調査を確認し、【第6】収支調査をご確認ください。

回答終了
画面

経営実態調査の回答締切は、

- ・紙媒体...各都道府県団体事務局へお問い合わせください。
- ・インターネットでの回答...8月2日(金)までお願いいたします。

令和元(2019)年度

日本私立学校振興・共済事業団より 特定健康診査のご案内を送付します!

特定健康診査
とは?

40歳から74歳(75歳に達する人は75歳誕生日前日まで)の加入者及び被扶養者を対象とした内臓脂肪型肥満に着目した生活習慣病予防のための健診です。

私学事業団



被扶養者分
健診データ

医療機関



特定健康診査のご案内
受診券(被扶養者分のみ)

加入者の定期健診結果
(人間ドックを含む)

必ずお渡し
ください!

私立幼稚園



受診券
(被扶養者分)

ご家族(被扶養者)



特定健康診査受診
(令和2年3月31日まで)

メンタルヘルス等相談サービス

相談料無料

私学事業団健康相談ダイヤル

心と体のさまざまなご相談に医師・保健師・助産師・看護師などがお応えします。

対象者: 加入者(任意継続加入者を含む)とそのご家族及び75歳以上の教職員

健康相談

メンタルヘルス相談

医療相談

育児・介護相談

セカンドオピニオン相談

通話料
無料

0120(24)7831

24時間
年中無休

WebカウンセリングURL

<https://t-pec.jp/websoudan/>

ユーザー名: shigaku

パスワード: 247831

電話・Web・面談によるメンタルヘルスカウンセリングも行っています(面談は、年度内5回まで無料)。

セカンドオピニオン相談 通話料無料 0120 (36) 8102 月曜日～土曜日 9:00～18:00
プライバシー保護を厳守しておりますので、安心してご利用ください。

日本私立学校振興・共済事業団
福祉部 保健課 健康管理係・保健係

〒113-8441 東京都文京区湯島1-7-5
電話 03 (3813) 5321 (代表)
FAX 03 (3812) 8775

富山は日本のスウェーデン！？

富山県の住みやすさなどを北欧型福祉国家の代表格とされるスウェーデンと重ねながら読み解く『富山は日本のスウェーデン』（井出英策、集英社新書）が昨年出版され、本のタイトルに興味を抱き、手に取ってみました。

本書によると、富山県の人口は47都道府県で37位ですが、一人当たり県民所得は6位、勤労者世帯の実収入は4位、さらに持ち家率、家の面積、自動車の保有台数、女性の正社員比率、生活保護被保護率の低さはいずれも1位。さらに落ちこぼれの少ない子どもたちの学力は全国トップレベルで、意外なほど豊かで、格差が小さく、女性の就労や学びを尊重する社会が富山にはあり、スウェーデンに似ているそうです。著者はこのような様々なデータをもとに、少子高齢化、人口減少、経済停滞にあえぐ日本にとって、富山の歴史、現状から将来への希望を見出すことを試みており、今後のモデルになるものとして注目しているそうです。

豊かな環境に恵まれ、教育県として定評のある富山県ですが、幼児教育の環境整備についても少しずつ向上しつつあります。今年度より「富山県幼児教育センター」が富山県教育委員会に開設されました。園内研修を通した指導助言によって、より一層幼児教育の質の向上と充実が期待されています。さらに、8月には東海北陸地区私立幼稚園教育研究富山大会が開催されます。東海北陸8県の皆様にとって実り多い研修となるよう県内50園が準備を進め、多くの皆様のご参加を心待ちにしています。

研修や旅行で富山に来県される際には、富山の豊かな魅力を少しでも見て、感じていただけたら幸いです。

（富山県私立幼稚園・認定こども園協会理事、富山市・藤園幼稚園／増田拓哉）

愛媛県の現状について

愛媛県私立幼稚園協会の会員は、平成31年度3月現在で91園です。「子ども・子育て支援新制度」が、平成27年4月にスタートし、4年が経過した現在では7割を超える園が新制度に移行しています。そんな中処遇改善Ⅱへの対応としてここ数年協会としても積極的に研修を行ってきました。

愛媛県私立幼稚園協会は新居・今治・中予・八幡浜・宇和島の5つの地区に分かれており、愛媛県私立幼稚園協会とは別に各地区においても研修を行ってきました。昨年度までは愛媛県私立幼稚園協会直轄の研修しか処遇改善Ⅱの対象の研修とは認められませんでした。今年度より各地区主催の研修も対象と認められました。

ただ全ての研修が無条件で対象となるわけではありません。一定以上のレベルを研修として担保するために、下記の条件がついています。

- ①「保育者としての資質向上研修俯瞰図」をもとに研修会が計画されていること。
- ②地区主催で研修会が行われることが明らかであること。
- ③地区全園及び県内全域に研修会の告知がなされること。
- ④研修会の意図に相応しい講師がたてられていること。
- ⑤参加者の管理を研修主催地区が必ず行い、参加者名簿および受講証明書発行報告書を（一財）愛媛県私立幼稚園協会に提出すること。
- ⑥上記の条件を満たしているかの判断を教育研究委員会が行い、理事会の承認を得ていること。

そもそも研修とは処遇改善のためだけに行うものではありません。各個人が資質向上のために研鑽に努めることで、子どもたちによりよい教育を提供できるようにこれからも頑張っていきたいと思います。

（（一財）愛媛県私立幼稚園協会評議員、松山市・番町幼稚園／新野徹治）

編集後記

この原稿をしたためているころ、私の住む九州の地は息をのむような彩りに包まれます。新緑の眩さとツツジやシャクナゲの鮮やかさと。澄んだ空気の中に佇みながら、めぐりゆく日本の四季の素晴らしさを感じています。多少の変化はあっても必ず春が来て夏がくる。古来から変わらないはずなのに、私たちを取り巻く環境の変化は季節のようにではなく、戸惑いを覚える園長先生方も多いのではないのでしょうか。

年度末、歴史ある園の休園のニュースが飛び込んできました。要因は何であれ、そこに子どもたちがいるならば、季節と同じように巡りくる明日があるはずなのに。今年の10月からは幼児教育の無償化が始まります。私たちを取り巻く環境はまた大きく変化するに違いありません。私たちは今、何をすべきか。生き残る者は強い者でも賢い者でもなく、変化に対応できる者。ダーウィンの進化論を噛み締めながら前に進もうと思っています。

(調査広報委員・高尾恵子)

令和元年度（第5回）免許状更新講習の認定一覧

●必修領域「全ての受講者が受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
神奈川県大和市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は9月14日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	小泉 裕子（鎌倉女子大学 大学院教授）	6時間	令和元年9月7日	100人	平31-80011-101097号
神奈川県相模原市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月8日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	吉岡 日三雄（相模女子大学 特任教授） 角田 雅昭（相模女子大学 准教授）	6時間	令和元年8月7日	200人	平31-80011-101098号
神奈川県川崎市	本講習は「子どもの生活習慣とからだの変化を踏まえた課題について考える」「幼稚園をめぐる近年の状況の変化を踏まえた教員の役割」の事項について、教員に求められる最新の知識・技能の習得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月6日【午後：選択必修講習】、7日【午前：選択必修講習】開催の連続して行うものです。	堀 純子（洗足こども短期大学 幼児教育保育科教授） 柳井 郁子（洗足こども短期大学 幼児教育保育科教授）	6時間	令和元年8月6日～ 令和元年8月7日	140人	平31-80011-101099号
神奈川県横浜市	幼稚園教育要領改訂も進められ、新たな保育のあり方が求められている。その背景には、子どもを取り巻く環境の変化があり、世界的な保育の質への関心の高まり、子どもを一人の人間として見るなどの子ども観などがある。その中で具体的には、子ども主体の遊びが学びであること、協同的な学びへの関心が大きくなっている。ここでは、そうしたこれからの幼稚園教諭に求められる現代的な課題について、具体的なワークを通して学んでいきたい。なお、本講習は8月26日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	三谷 大紀（関東学院大学 教育学部こども発達学科准教授）	6時間	令和元年8月27日	240人	平31-80011-101100号
神奈川県横浜市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月2日の選択必修講習と連続して行うものです。	山室 吉孝（鶴見大学 短期大学部保育科教授）	6時間	令和元年8月1日	200人	平31-80011-101101号

●選択必修領域「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
神奈川県大和市	本講習では、学校を巡る近年の状況の変化を見ながら、幼児教育の在り方や、その為の幼児教育者の役割とは何か、また、質の高い幼児教育をめざしていく為に、幼児教育の現場では、今後、何を大切に実践していかねばならないかを再確認しあう。なお、本講習は9月7日開催の必修講習と連続して行うものです。	森本 壽子（鎌倉女子大学 短期大学部初等教育学科教授）	6時間	令和元年9月14日	100人	平31-80011-302283号
神奈川県相模原市	本講習では幼稚園教諭に期待される新たな資質能力について、「子育て支援」の視点から考えてみる。また、我が国は今、AI等の先進技術を産業や社会に取り入れ、人間中心の社会“Society 5.0”を目指している。文部科学省で整理したこの時代を豊かに生きるために“共通して求められる力”を踏まえ、保育・幼児教育のあり方を考える。なお本講習は、8月7日開催の必修講習と連続して行うものです。	久保田 力（相模女子大学 子ども教育学科教授） 七海 陽（相模女子大学 准教授）	6時間	令和元年8月8日	200人	平31-80011-302284号
神奈川県川崎市	本講習は「園内外における質の高い連携をめざして」「新学習指導要領における小学校1年生の学習内容からみた幼小接続について」教員に求められる最新の知識・技能の習得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月6日【午前：必修講習】、7日【午後：必修講習】開催の連続して行うものです。	坪井 葉子（洗足こども短期大学 幼児教育保育科教授） 長島 万里子（洗足こども短期大学 幼児教育保育科准教授）	6時間	令和元年8月6日～ 令和元年8月7日	140人	平31-80011-302285号

神奈川県 横浜市	幼稚園・認定こども園などを巡る近年の課題は大変大きくなるだけでなく社会的な注目を集めている。そのような中で、保護者からの要望の高さや子どもに対応する難しさなどが保育現場では課題とされている。また、園の安全に対する管理が必要なのは当然であり、その中で具体的な保護者対応や園としての発信の課題がある。本講座では上記の課題解決に向けて必要な園としての在り方、更に保育者の意識の方向性などについて具体的に検討したい。なお、本講習は8月27日開催の必修講習と連続して行うものです。	若月 芳浩（玉川大学 教育学部乳幼児発達学科教授）	6 時間	令和元年 8 月 26 日	240 人	平 31-80011-302286 号
神奈川県 横浜市	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂に伴う動向を基に、未来に必要とされる人材について考察を加える。また、子どもとの関わりや、幼稚園経営に関する組織論について、脳神経科学や内発的動機づけなどの心理学に関する新しい知見を取り入れて講義する。なお、本講習は8月1日の必修講習と連続して行うものです。	橋本 弘道（鶴見大学 短期大学部教授）	6 時間	令和元年 8 月 2 日	200 人	平 31-80011-302287 号

●選択領域「受講者が任意に選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
北海道 帯広市	幼児教育及び保育について理解と実践をふり返り、応用力をつけ現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	吉田 耕一郎（北翔大学 非常勤講師） 佐藤 公文（北海道教育大学旭川校 非常勤講師）	6 時間	令和元年 8 月 24 日	70 人	平 31-80011-508674 号
北海道 釧路市	幼児教育及び保育について理解と実践をふり返り、応用力をつけ現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	吉田 耕一郎（北翔大学 非常勤講師） 佐藤 公文（北海道教育大学旭川校 非常勤講師）	6 時間	令和元年 8 月 24 日	50 人	平 31-80011-508675 号
北海道 北見市	幼児教育及び保育について理解と実践をふり返り、応用力をつけ現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	吉田 耕一郎（北翔大学 非常勤講師） 佐藤 公文（北海道教育大学旭川校 非常勤講師）	6 時間	令和元年 8 月 24 日	50 人	平 31-80011-508676 号
北海道 旭川市	幼児教育及び保育について理解と実践をふり返り、応用力をつけ現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	吉田 耕一郎（北翔大学 非常勤講師） 佐藤 公文（北海道教育大学旭川校 非常勤講師）	6 時間	令和元年 8 月 4 日	120 人	平 31-80011-508677 号
北海道 旭川市	幼児教育及び保育について理解と実践をふり返り、応用力をつけ現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	吉田 耕一郎（北翔大学 非常勤講師） 佐藤 公文（北海道教育大学旭川校 非常勤講師）	6 時間	令和元年 8 月 10 日	120 人	平 31-80011-508678 号
北海道 旭川市	幼児教育及び保育について理解と実践をふり返り、応用力をつけ現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	吉田 耕一郎（北翔大学 非常勤講師） 佐藤 公文（北海道教育大学旭川校 非常勤講師）	6 時間	令和元年 8 月 17 日	120 人	平 31-80011-508679 号
北海道 札幌市	幼児教育及び保育について理解と実践をふり返り、応用力をつけ現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	吉田 耕一郎（北翔大学 非常勤講師）	6 時間	令和元年 8 月 23 日～ 令和元年 8 月 24 日	150 人	平 31-80011-508680 号
北海道 札幌市	幼児教育及び保育について理解と実践をふり返り、応用力をつけ現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	田代 幸代（共立女子大学 家政学部児童学科教授）	6 時間	令和元年 8 月 30 日～ 令和元年 8 月 31 日	200 人	平 31-80011-508681 号
北海道 江別市	幼児教育及び保育について理解と実践をふり返り、応用力をつけ現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	藪 淳一（札幌大谷大学 短期大学部保育科非常勤講師）	6 時間	令和元年 8 月 31 日	100 人	平 31-80011-508682 号
群馬県 渋川市	本講習は、国公私立の区別なく、幼児教育に携わる保育教諭の多様なニーズに応じるための講習、幼児教育における専門的な知識や技能の習得、保育教諭としての資質向上を目的とする。そのために、①新教育要領の理解と実践、②子どもの内面理解、③幼児期の終わりまでに育ってほしい姿などを中心に、臨牀的な特質を踏まえた講義・演習を行う。	加藤 篤彦（武蔵野第一・第二幼稚園長） 小山 望（埼玉学園大学 教授）	6 時間	令和元年 8 月 8 日～ 令和元年 8 月 9 日	30 人	平 31-80011-508683 号

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とキャリア

毎月 2 日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

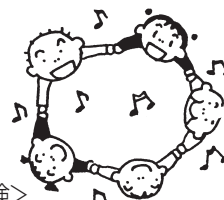
神奈川県 相模原市	〔講座A〕明治以前にはわらべうたが、明治以降には唱歌や童謡と呼ばれる子どものうたが作られた。子どもの歌が時代と共にどのように変遷してきたのかを概観し、子どもにはどういった曲が相応しいのかを考えるきっかけとしたい。〔講座B〕2017年改訂の幼稚園教育要領において、「多様な動きを経験する中で、体の動きを調整するようにすること」という文言が追加された。“多様な動き”が意味するものは何か、様々な観点から多面的に考察していく。	岡部 芳広（相模女子大学 教授） 宗野 文俊（相模女子大学 准教授）	6 時間	令和元年 8 月 11 日	200 人	平 31- 80011- 508692 号
神奈川県 相模原市	〔講座A〕保育者の専門性を行かした相談支援について検討する。子どもや保護者との日常でのかかわりを生かした支援、そして発達検査等のアセスメントや他機関との連携など、心理臨床の専門性にも触れて理解を深めたい。〔講座B〕子どもの主体的・対話的な深い学びが生まれる保育の環境とはどのようなものか、遊びの中で子どもが経験していることの意味を探り、保育者がどのように支え、援助していくのか、そのプロセスの質を考えていく。	矢野 由佳子（和泉短期大学 准教授） 久保 小枝子（和泉短期大学 専任講師）	6 時間	令和元年 8 月 11 日	200 人	平 31- 80011- 508693 号
神奈川県 川崎市	本講習では、支援児が他児とともに安心して園生活を送るために、最新の「幼稚園における特別支援」「幼稚園における特別支援計画」「専門機関・家庭との連携と保育計画」等を学ぶとともに支援児の理解を深める。	久保山 茂樹（国立特別支援教育総合研究所 企画部総括研究員）	6 時間	令和元年 8 月 8 日	140 人	平 31- 80011- 508694 号
神奈川県 川崎市	本講習では幼児理解とともに、「からだ遊びで発達を促す」「日本の伝統音楽・文化を子どもたちに伝えよう」「子どもの言葉の発達・コミュニケーションの発達を促す遊びと援助、個別的教育的ニーズへの対応」を学びます。	石濱 加奈子（洗足こども短期大学 幼児教育保育学科教授） 長谷川 真由（大阪音楽大学 准教授） 下尾 直子（洗足こども短期大学 幼児教育保育学科准教授）	6 時間	令和元年 9 月 18 日、 令和元年 10 月 16 日、 令和元年 11 月 13 日	140 人	平 31- 80011- 508695 号
神奈川県 横浜市	近年、質の高い保育が求められています。新幼稚園教育要領も、主体的学びや対話的学び、深い学びに基づいた保育実践を謳っています。そこで、「子どもの今ここ」「さながらの生活」を大事にした質の高い保育実践とはいかなるものか、また、子どもの自己肯定感を高める保育記録とはどのようなものかを最新の研究をもとに考えていきます。	佐藤 康富（鎌倉女子大学 短期大学部 教授）	6 時間	令和元年 8 月 5 日	100 人	平 31- 80011- 508696 号
神奈川県 横浜市	一人ひとりの子どもの主体的な育ちと学びを支えていくための保育実践の基盤となる「子ども理解」と、その理解に基づいた「援助」を幅広く探究していく幼稚園教諭としての専門性について学び、理解を深めることを目的とします。具体的事例やビデオ・カンファレンスを通して、自らの子どもを捉えるまなざしや保育の枠組みを問い直すと同時に、保育の質を向上していくために必要とされる保育者の資質や、それを支える同僚や保護者との関係構築についても探っていきます。	高嶋 景子（聖心女子大学 文学部教育学科准教授）	6 時間	令和元年 8 月 8 日	100 人	平 31- 80011- 508697 号
神奈川県 横浜市	本講習では、近年の子どもを取り巻く状況や幼児教育に求められていることを様々な視点から捉えた上で、子どもにとっての遊びの意味を理解し、子どもの主体性を尊重した保育の在り方について、講義とビデオ観察、ディスカッションを通して考えていく。	松山 洋平（和泉短期大学 児童福祉学科准教授）	6 時間	令和元年 8 月 9 日	100 人	平 31- 80011- 508698 号
神奈川県 横浜市	本講習においては幼児の発達を踏まえ、一人一人の子どもに対する適切な援助について探っていきます。子どもの主体性を大切にしながら私たちにどのような援助ができるのか、また自園においてよりよい実践をするうえで必要なことは何かということについても考えていきます。	桐川 敦子（日本女子体育大学 准教授）	6 時間	令和元年 8 月 19 日	100 人	平 31- 80011- 508699 号
神奈川県 横浜市	本講習は、障害のある子どもや気になる子どものいる保育のあり方を考えます。対象児の理解を深め、多面的多角的視点から多様化する保育のあり方を考えます。日々の保育を振り返りながら幼児理解を起点に保育の質を高めていく保育実践は、幼稚園における特別支援教育を具体化する鍵になります。そこで、この講習では、保育事例を検討しながら子どもへの援助やクラス経営の進め方、保護者との対応や保護者との連携協働のあり方などについて理解を深め学ぶことを目的とします。	野本 茂夫（國學院大學 人間開発学部 子ども支援学科教授）	6 時間	令和元年 8 月 22 日	100 人	平 31- 80011- 508700 号
神奈川県 横浜市	幼稚園教育要領の総則において、幼稚園教育は環境を通して行うものであることを基本とする、と述べられているように、幼児にとり、環境は大変重要なものである。本講習では幼児の屋外環境との関わりに着目し、特に園庭における環境のあり方、環境構成やあそび活動の意義、方策、可能性について、一部演習を交えた講義を通して検討を行う。	仙田 考（鶴見大学 短期大学部保育科准教授）	6 時間	令和元年 8 月 28 日	100 人	平 31- 80011- 508701 号
茨城県 水戸市	幼児期の社会性の発達には環境が大きな影響を与える。子どもの自己制御能力に注目しその発達の捉え方と能力に応じた適切な関わり方を考える。また保育者同士や保護者との連携は不可欠だが、グループワークを通して自分のコミュニケーション方法を見直してみる。これからの時代に求められる保育者は現状に甘んじることなく社会の変化を見据えて、広い視野をもって子どもと向き合う感性が求められる。また“保育者として働く基本”を受講生同士で改めて語り合い新たな活力にし、保護者が“わが子を託したい”と思える保育者を目指す。	大内 晶子（常磐短期大学 幼児教育保育学科准教授） 木村 久美子（認定こども園大成学園幼稚園 園長）	6 時間	令和元年 8 月 4 日	100 人	平 31- 80011- 508702 号
茨城県 土浦市	幼児期の社会性の発達には環境が大きな影響を与える。子どもの自己制御能力に注目しその発達の捉え方と能力に応じた適切な関わり方を考える。また保育者同士や保護者との連携は不可欠だが、グループワークを通して自分のコミュニケーション方法を見直してみる。これからの時代に求められる保育者は現状に甘んじることなく社会の変化を見据えて、広い視野をもって子どもと向き合う感性が求められる。また“保育者として働く基本”を受講生同士で改めて語り合い新たな活力にし、保護者が“わが子を託したい”と思える保育者を目指す。	大内 晶子（常磐短期大学 幼児教育保育学科准教授） 木村 久美子（認定こども園大成学園幼稚園 園長）	6 時間	令和元年 8 月 18 日	120 人	平 31- 80011- 508703 号
群馬県 渋川市	本講習は、国公立の区別なく、幼稚園教育に携わる教諭の多様なニーズに応じ、幼稚園教育における専門的な知識や技能の習得、幼稚園教諭としての資質向上を目的に意義あるものとする。具体的には「小学校との接続」を中心に、乳幼児期から児童期に繋がる発達の理解、環境との関わりから見てくる幼児期の学びなど幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の内容を踏まえ、実践的な内容で構成する。なお、受講者自らが課題を持ち寄り、分科会形式で協議を行いながらそれぞれのテーマに臨む。	高橋 景子（聖心女子大学 文学部教育学科准教授） 田澤 里喜（玉川大学 教育学部乳幼児発達学科准教授）	6 時間	令和元年 8 月 5 日～ 令和元年 8 月 6 日	30 人	平 31- 80011- 508704 号

広島県 広島市	・幼稚園教育要領改訂の最新の情報を共有し、これからの保育のあり方を考える。 ・音楽、人形劇、造形など、現場に即した保育技術の向上と知識の獲得をめざす。 ・遊びを通じて自然に親しむことの大切さを学ぶ。 ・ゲストスピーカーとして、バイオリニスト上野眞樹さん、歌、あそびをガーガーズさんにご講演いただく。なお、全体のコーディネートは、比治山大学短期大学部非常勤講師の中丸元良氏が担当する	関野 吉晴（武蔵野美術大学 造形学部 教養文化研究室教授） 岡 健（大妻女子大学 教授） 高田 憲治（広島女学院大学 非常勤講 師） 大毛 宏喜（広島大学 病院感染症科教 授） 菊野 秀樹（比治山大学 短期大学部幼 児教育科教授） 三樹 正典（広島女学院大学 幼児教育 心理学科教授） 福本 幸夫（広島大学 生物生産学部客 員教授） 馬杉 知佐（比治山大学 短期大学講師） 森保 尚美（広島女学院大学 准教授） 安家 周一（梅花女子大学 教授） 七木田 方美（比治山大学 准教授） 中丸 元良（比治山大学 短期大学部非 常勤講師）	12 時間	令和元年 8 月 1 日～ 令和元年 8 月 2 日	250 人	平 31- 80011- 508705 号
山梨県 甲府市	「生きる力」は日々の遊びや生活のなかで「主体的で対話的な」学びを通して育まれていますが、行事においても日ごろの「生きる力」を育てる教育がいかに発揮されるように、保育者自身が身体・心の五感を通じて感受し表現をする回路を取り戻し、さらに子どもたちが運動会の練習をするなかで考えたり試したり工夫したり協力したりする種目を保育者が立案できるように、講義とワークショップを通して取り組みます。	大須賀 隆子（帝京科学大学 准教授）	6 時間	令和元年 8 月 22 日	30 人	平 31- 80011- 508706 号
鹿児島県 鹿児島市	乳幼児の健康管理や健康教育・保育の進め方及び乳幼児の心の発達や発達段階に応じた環境づくり並びに保育者としてのかわり方等についての講座を開講する。また、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領、保育所保育指針に基づいて、日々の保育に結びつく、教育課程の編成・実施等についての講座を開講する。	田子山 ゆかり（鹿児島県総合教育セン ター 研究主事） 宇都 弘美（鹿児島女子短期大学 教授）	6 時間	令和元年 8 月 6 日	45 人	平 31- 80011- 508707 号

まさかのときの“JK保険” 全日本私立幼稚園連合会の保険

本保険制度は、全日私幼連が指定した損害保険会社の協力を得て、加盟園のために開発した制度です。

- 園が損害賠償の請求を受けたら ▶ **加入園賠償責任保険**
＜施設賠償責任保険＋生産物賠償責任保険＞
- 園児が就園中にケガをしたら ▶ **園管理下の園児傷害保険（0-157補償付）**
＜学校契約団体傷害保険＞
- 24時間・園児の急激かつ偶然な外来の事故によるケガに ▶ **園児24保険（0-157・熱中症・地震補償付等）**
＜総合生活保険（こども総合補償）＞
- 教職員の方の労災事故に対する上乗せ補償に ▶ **労災上乗せ保険**
＜労働災害総合保険（法定外補償保険）＞



詳細については全日私幼連HP・加盟園のページ「お知らせ」に掲載しております

このご案内はJK保険の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款によりますが、ご不明な点がございましたら、下記引受保険会社までお問い合わせください。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上
三井住友海上火災保険(株)
TEL:03-5299-7663



TOKIO MARINE
NICHIDO

東京海上日動
東京海上日動火災保険(株)
担当課:公務第二部 文教公務室
TEL:03-3515-4133

CHUBB®

Chubb損害保険(株)
(旧エース損害保険(株))
TEL:03-6364-7110



損保ジャパン日本興亜

損害保険ジャパン日本興亜(株)
TEL:03-3349-5137

平成30年12月作成 18-TC02605